

鏡ヲ着ケ居ル者ハ同時ニ之ヲ脱セシム著種ノマニ身長計ヲ臺上ニ立チ踵ヲ竝ヘテ後ニ接シ姿勢ヲ正サシメ殊ニ膝、腰、項部等ヲ正シク伸シアルヤ否ニ注意シ頭頂ヲ杆ノ正中ニ當テ更ニ全身ノ位置ヲ通視シテ身長ヲ定ム但尺度ノ釐位ニアルモノハ高キニ從フ

測尺終レハ衣服ヲ著セシム

第三項 視力ハ斯涅兒連氏試視力表ヲ以テ檢スヘシ試視力表ハ場内ノ最モ明ナル壁上ニ掲ケ大約眼下同高ノ位置ニ在ラシメ受檢者ヲシテ二十尺ノ距離ニ畫セル位置ニ立チテ之ニ對向セシメ先少偏眼ヲ以テ次ニ兩眼ヲ以テ表中ノ細小ナル號ヨリ視セシメテ形狀ヲ問フヘシ其ノ二十號ヲ明視スル者ハ視力一、三十號ヲ明視スル者ハ視力三分ノ二トス其ノ他之ニ準シテ視力ヲ定ムヘシ但視力ノ度ヲ壯丁名簿(體格檢査表)ニ記入スルニハ約分ヲ用井ス表ノ號數ヲ分母トシ20、30、40等ノ數ヲ以テスヘシ又雨雪天等ノ爲メ室内ノ光力不充分ナルトキハ醫官ハ之ヲ顧慮シ自己ノ視力ト相對比シテ受檢者ノ視力ヲ判定ス

ヘシ(二十二年陸軍省達第六十號ヲ以テ本項中改正)

視力ニ障礙アル者ハ近視、遠視、弱視其ノ他ノ症タルコトヲ檢査シテ之ヲ記入スルヲ要ス其ノ種類及度數ヲ定ムルニハ規定ノ檢査機械ヲ使用スヘシ

辨色力ハ必要アル場合ニ限リ之ヲ檢査スヘシ

第四項 視力檢査終ラハ受檢者ヲシテ醫官ノ前方約六尺ノ距離ニ立タシメ濕シタル示指頭ヲ以テ交々一耳ヲ密塞シ其ノ檢スヘキ耳ヲ醫官ニ對向セシメ低聲ヲ以テ住所、職業、氏名、年齡等ヲ問ヒ應答ノ間言語、精神、聽官ノ機能ヲ檢スヘシ

特ニ聽力ノ檢査ヲ要スルトキハ約六尺ノ距離ニ於テ醫官先ツ上ノ注意ヲ用井テ低語ヲ發シ受檢者ヲシテ之ヲ復誦セシメ兩耳各別ニ檢査スルヲ要ス其ノ低語ハ隨意ニ二十一ヨリ九十九ニ至ルマテノ數字ヲ選ヒテ之ヲ用井ルヲ可トス但受檢者ヲシテ醫官ノ口ノ運動ヲ目撃シテ其ノ言語ヲ推測セシムヘカラス

第五項 前項ノ檢査終ルノ後體格一般ノ構造ヲ觀察スヘシ即チ受檢者ヲシテ衣

第八類 陸軍身體檢査手續

服ヲ脱セシメ著種ノママ醫官ノ前二三歩ヲ距テ直立セシメ姿勢ヲ正シテ醫官ノ眼ニ注目セシメ顔面、頸、胸、腹部及四肢ノ前面ヲ通視シ次ニ背面セシメテ頭、項、背、腰、臀部及四肢ノ後面ヲ通視シ同時ニ皮膚病ノ有無ニ注意スヘシ

第六項 關節運動ハ頸部ニ於テハ俯仰、顧盼、脊柱ニ於テハ反張、前屈及左右屈、四肢ニ於テハ屈伸、内外轉、回轉ノ諸運動ヲ爲サシメ次ニ步行ヲ試ミ又趾尖ヲ以テ體重ヲ支ヘシメ支柱ノ力ヲ檢スヘシ

第七項 各部検査ハ頭顱ニ起リ陰部、肛門ニ終ル其ノ順序ハ左ノ各項ニ據ルヘシ
(イ)頭顱ニ於テハ先ツ其ノ大小及變形ノ有無ヲ檢シ其ノ有髮部ニハ特ニ突隆シ若クハ陷凹セル部分ナキヤ或ハ外傷、腫瘍等ナキヤニ注意シ面部ニ於テハ全面部ヲ通視シ殊ニ眼瞼ノ形狀其ノ開閉ノ難易、睫毛ノ存否、位置、方向、涙液分泌及排泄ノ關係、結膜ノ健否ヲ檢シ次テ眼球各箇ニ及ヒ對比的

ニ其ノ形狀、位置、大小及硬度(彈力性)瞳孔ノ形狀及開縮ノ狀態並屈折體ノ清濁ヲ檢シ次ニ鼻及其ノ近部鼻道通氣ノ良否並鼻腔ニ於ケル腫起、腫有無ヲ檢スヘシ

口及口腔ニ在テハ先ツ口唇ノ健否其ノ癒著ノ有無ヲ檢シ次ニ下顎關節運動ノ難易、舌、口蓋、咽頭、齒牙、齒齦及口腔一般ノ性狀、健否ヲ檢シ呼吸氣惡臭ヲ帶ヒサルヤニ注意スヘシ

聽器ニ左テハ先ツ耳輪ノ周圍ニ注意シ次ニ外聽道ニ於ケル狹窄若クハ閉鎖、排泄物並新生物ノ有無、次テ要スルトキハ鼓膜ノ健否及歐氏管ノ通塞ヲ檢スヘシ

(ロ)頸部ニ於テハ其ノ形狀及腫瘍、瘰癧、癩痕等ノ有無其ノ他頭部ノ位置正シキヤ否ニ注意スヘシ

(ハ)胸部ニ於テハ胸廓ノ長短、廣狹、厚薄ヲ檢シ次テ鎖骨、胸骨、劍狀軟骨及肋骨ノ性狀並其ノ畸形、疾病ノ有無ヲ檢シ次テ受檢者ヲシテ深呼吸ヲ爲

第八類 陸軍身體検査手續

サシメテ呼吸ノ難易、胸廓運動ノ狀況ヲ視察シ又心臟ノ鼓動ニ注意シ若シ
心肺等ニ病變ノ疑アラハ理學的診斷ヲ行フヘシ胸圍及呼吸縮張ノ差ヲ測ル
ニハ兩上肢ヲ開展セシメ尺帶ニテ後ハ兩肩胛骨下角ノ下、前ハ左右乳頭ノ
直下ニ於テ水平ニ周匝シ次テ兩上肢ヲ垂レテ自然ノ位置ニアラシメ尋常ノ
呼吸ヲ爲サシメテ先ツ胸圍ヲ測リ次テ深呼吸ヲ爲サシメテ縮張ノ差ヲ測ル
ヘシ其ノ度目ヲ讀ムハ一側ノ乳頭下ニ於テス

胸圍ハ身長ノ半ニ達シ呼吸縮張ノ差ハ一寸五分以上ナルヲ可トス但胸廓ノ
構造良ナル者及將來發育ノ望アル者ハ之ヲ酌量スヘシ

胸廓構造一見佳良ナル者ハ測尺ヲ要セス

(二)腹部ニ於テハ先ツ腹壁ヲ檢シ次テ腹腔内腫瘍、臍歇兒尼亞ノ有無ニ注意
スヘシ

(ホ)脊柱及骨盤ニ於テハ先ツ其ノ方向、位置ノ正否ヲ檢シ各椎骨、腸骨、薦
骨、尾骶骨等ニ異狀ナキヤニ注意スヘシ

(ハ)四肢ニ於テハ其ノ形狀、長短、大小、皮膚及皮下脈管ノ性状等ヲ檢スヘ
シ

上肢ニ在テハ先ツ兩臂ヲ前方ニ展ヘ手掌ヲ接著セシメテ長短ノ差ナキヤ肥
瘠及發育ニ不同ナキヤ手背、手掌、指等ニ異狀ナキヤヲ檢シタル後兩臂ヲ
上ケテ腋臭ノ有無ヲ檢スヘシ

下肢ニ在テハ兩肢ヲ比較シテ其ノ肥瘠及發育ノ度ヲ檢シ膝關節並膝關節ハ
正位ニ在ルヤ下脚ニ靜脈怒張ナキヤ足背及趾ニ異狀ナキヤヲ檢シ次ニ足ヲ
舉ケシメ足蹠ヲ檢スヘシ

(ト)陰部及肛門ノ検査ハ先ツ禪ヲ脱セシメ陰莖ニ於テハ尿道口ノ位置ヲ檢シ
排尿ノ難易ヲ問ヒ陰囊ニ於テハ辜丸、副辜丸ノ存否、位置、肥大瘦小、腫
瘍ノ有無、精系靜脈ノ怒張及腹輪ノ擴張、歇兒尼亞ノ有無ヲ檢シ次テ受檢
者ヲシテ其ノ體ヲ背面且前屈セシメ痔核、痔瘻、脫肛其ノ他肛圍ニ於ケル
病變ノ有無ヲ檢スヘシ但歇兒尼亞ノ有無ヲ檢スルニハ強ク努責セシムヘ
シ

シ

- 第八項 前各項ノ検査終ラハ受檢者ヲシテ衣服ヲ著セシメ醫官ハ體格等位ヲ定メテ壯丁名簿（體格検査表）ニ等位ノ印及自印ヲ押スヘシ
- 醫官二名以上ニテ同一受檢者ノ検査ヲ分擔シタルトキハ毎分擔事項ニ自印ヲ押シ等位ノ判定ハ高級故參ノ者ニ於テスヘシ
- 第九項 壯丁名簿（體格検査表）ハ可成記註ヲ簡ニシ些細ノ異狀ハ記註ヲ要セスト雖凡甲種ニ定メタル者及身長不足ノ故ノミヲ以テ丙種、丁種トナス者ノ他ハ其ノ等位ヲ定メタル理由ヲ記入スヘシ
- 第十項 身體變常ノ爲メ乙種、丙種、丁種トナスヘキ標準ハ附録ニ據ル
- 第十一項 身長不足ノ故ヲ以テ甲種、乙種トナスヘカラサル者ハ視力以下ノ検査ヲ省略スルコトヲ得
- 視力以下ノ検査中丙種若クハ丁種タルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ爾餘ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第十二項 身體各部ノ變常ハ不合格トナスニ足ラサルモ之ヲ合スレハ合格トナスヘカラサル者ハ不合格トス

第十三項 受檢者曾テ不合格タリシモ現時合格ト認ムル者及曾テ重病ニ罹リシモ再發ノ患ナシト認ムル者又ハ現ニ傷痍疾病ニ罹ルモ其ノ症輕ク適當ノ治療ニ依リ治癒スヘキ者ハ壯丁名簿（體格検査表）ニ其ノ意見ヲ記入シテ合格トナスヘシ

第十四項 受檢者ノ身體變常ハ検査上必要ノ場合ニアラザレハ他ニ示スコトヲ得ス且故ナク他人ニ漏告スヘカラス

第十五項 検査醫官ハ周密ヲ旨トシ學術ニ基キテ検査シ必ス自己ノ信憑スル所ニ據リテ判斷スヘシ

検査醫官ハ受檢者ニ接スルコト溫和ニシテ苟モ之ヲ威嚇シ又ハ其ノ健康ヲ害フヘキ若クハ無用ナル検査ヲ行フコトヲ得ス

第十六項 検査場ニ充ツル家屋ハ適宜ニ廣ク且明ナルヲ要ス

第十七項 醫官ハ検査終了後陸軍報告例ニ據リ報告ヲ作ルヘシ

第二章 徴兵検査

第十八項 壯丁一日ノ検査人員ハ醫官二名ニ對シ百七十名以上百九十名以下ト

ス

第十九項 身長ハ聯隊區又ハ警備隊區徴兵醫事務員ヲシテ測定セシムヘシ

第二十項 病中又ハ畸形ニシテ測尺スヘカラサル者ハ壯丁名簿ニ其ノ事由ヲ記

入シ又身長四尺五寸未滿ノ者ハ四尺五寸未滿ト記スヘシ

第二十一項 身長四尺八寸未滿ニシテ著シキ疾病變常ナシト認ムル者ハ他ノ檢

査ヲ行ハスシテ等位ヲ附スルコトヲ得

身長四尺八寸以上五尺未滿ノ者ハ先ツ體格一般ノ景況ヲ觀察シ且適宜要點ノ

ミヲ検査シテ等位ヲ附スルモ妨ナシ身長五尺以上五尺一寸未滿ニシテ職工ニ

適セサル者亦同シ

第二十二項 近視ノ者及弱視其ノ他ノ症ニテ視力ニ妨アル者ハ現役及補充兵ニ

適セス六週間現役兵及雜卒、職工ニ限リ裸眼ノ視力二分ノ一マテハ合格トナ
スコトヲ得

第二十三項 壯丁ノ家ニ就テ検査ヲ行ヒ體格ノ適否ヲ判定シタルトキ若クハ醫

師ノ診斷證書ニ依リ戊種トナシタル者アルトキハ該壯丁名簿摘要畫ニ其ノ事

由ヲ記入スヘシ(三十三年陸軍省達第六十號ヲ以テ本項改正)

第二十四項 徵集延期中ノ者ニ係ル壯丁名簿ニハ前年ニ異ナル要點ノミヲ記入

スヘシ

第二十五項 壯丁中故意ニ身體ヲ毀傷シ若クハ疾病ヲ作為シタル者ト認メタル

トキハ學術上確實ナル證據ニ基キ鑑定書ヲ製シテ徴兵官ニ出スヘシ

第二十六項 壯丁ノ父兄等ニ係ル醫師ノ診斷證書ヲ審按スルニ當リ癱疾不具ト

認定スヘキ疾病畸形ハ概子左ノ如シ

一 精神病ニシテ自營ノ能力ナキ者

二 腦、脊髓病(腦出血、脊髓勞等)

第八類 陸軍身體検査手續

- 三 榮養失常（蜜尿病、白血病等）
 - 四 内臓病（肺勞、胃癌等）
 - 五 癩及惡性贅生物
 - 六 全身ノ畸形
 - 七 兩眼失明
 - 八 偏眼失明シ他眼ノ視力著シク減弱スル者
 - 九 啞及聾
 - 十 一肢以上ノ用ヲ廢スル者
- 第三章 志願兵及諸生徒志願者検査
- 第二十七項 志願者一日ノ検査人員ハ醫官一名ニ付概子五十名トス
- 第二十八項 志願兵及諸生徒志願者身長ノ測尺ハ徵兵署事務員又ハ書記等ニ擔任セシムルモノトス
- 第二十九項 近視ノ者ハ合格トナスコトヲ得ス但軍醫學校生徒、各部依託學生、

同依託生徒志願者ニ在テハ此ノ限ニアラス（三十五年陸軍省達第百二十四號ヲ以テ本項中改正）

士官候補生志願者ニ在テハ近視ニシテ裸眼ノ視力斯涅兒連氏試視力表ノ三十號ヲ明視スル者一年志願兵志願者ニ在テハ近視ニシテ裸眼ノ視力同百號ヲ明視スル者ヲ合格トナスコトヲ得

第三十項 體格検査表ハ様式ニ從ヒ之ヲ要スル部隊ニ於テ調製シ検査終了後順序ヲ經テ各志願者ノ屬スル部隊ニ送付スヘシ（三十五年陸軍省達第十七號ヲ以テ三十項ヲ削リ本項ヲ三十項ニ改ム）

（體格検査表様式並附錄略ス）

●陸軍志願兵身體検査規則

（明治三十二年三月二十二日）
陸軍省令第六號

陸軍志願兵身體検査規則左ノ通定ム

- 陸軍志願兵身體検査規則
- 第八類 陸軍志願兵身體検査手續 陸軍志願兵身體検査 百二十七規則

第一條 陸軍志願兵身體検査ハ其ノ身體ノ合格ト不合格トヲ判別スルモノトス
此ノ検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

此ノ規則ハ陸軍士官候補生並諸生徒志願者ニモ適用ス
第二條 志願者身長ノ定限ハ五尺以上トス但別ニ定ムル所アルモハ此ノ限ニ

アラス

第三條 志願者ノ體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 甲種 身體强健ナル者

二 乙種 身體甲種ニ亞ク者

三 丙種前二項ニ當ラサル者及身長定限ニ達セサル者

第四條 前條ノ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス

第五條 丙種トナスヘキ者概子左ノ如シ

一 全身發育不全ナル者

二 精神機能ニ妨アル者及諸種ノ神経系病ニシテ急治スヘカラサル者

三 諸種ノ内臟疾患ニシテ急治スヘカラサル者

四 視力ニ障碍アル者但一年志願兵、士官候補生、軍醫學校生徒、各部依託

一 學生及同依託生徒志願者ハ近視ニ限リ其ノ度ヲ斟酌シテ特ニ合格トナス

コトヲ得 (三十五年陸軍省令第三十七號ヲ以テ本號中改正)

五 聽機ニ障碍アル者

六 咀嚼、言語ノ機能ニ妨アル者

七 骨、軟部ノ疾患ニシテ急治スヘカラサル者

八 諸種ノ癍痕、畸形、缺損等ニシテ醜形甚シク又ハ運動ニ妨アル者

●海軍志願兵

●海軍志願兵條例

(明治三十二年三月二十七日 勅令第七十一號)

三十二年勅令第四百四十七號三十六年同第二十號三十七年同第八

第八類 海軍志願兵條例

號ヲ以テ本令中改正

朕海軍志願兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍志願兵條例

第一條 海軍志願兵トハ海軍兵役ニ服センコトヲ志願シ認可ヲ得海軍志願兵籍ニ編入セラレタル者ヲ云フ

第二條 海軍志願兵トシテ徵募スヘキ卒ノ種別ハ左ノ如シ
水兵、軍樂生、木工、機關兵、看護、主厨

第三條 志願兵トシテ徵募シタル水兵中適當ノ者ハ所要ニ應ジ之ヲ信號兵ニ轉セシム其ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條 志願兵ノ徵募ハ其ノ年ニ於テ左ノ各項ニ適合スル者ニ就キ之ヲ行フ

- 一 水兵、機關兵ハ十七年以上二十一年未滿
- 二 木工、看護、主厨ハ十七年以上二十六年未滿
- 三 軍樂生ハ十六年以上十九年未滿

第五條 左ニ掲グル者ハ志願兵ノ徵募ニ應スルコトヲ得ス

- 一 陸軍ノ豫備役及後備役ニ在ル者
- 二 徵兵令第二十八條ニ當ル者
- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
- 四 刑事被告人
- 五 復權ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人
- 六 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

- 第五條ノ二 左ニ掲グル者ハ志願兵ニ採用スルコトヲ得ス
 - 一 身體完全ナラサル者
 - 二 品行方正ナラサル者
 - 三 無教育ノ者
 - 四 前各號ニ掲グル者ノ外海軍軍人ノ服役ニ適セサル者
- 第六條 軍樂生ニシテ入團後三箇月ヲ經過シ技藝發達ノ目途ナキ者ハ軍樂生ヲ第八類 海軍志願兵條例

免す

第七條 志願兵ノ服役ハ海軍下士卒服役條例ニ依ル

第七條 志願兵現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコト

アルハシテ

第八條 (削除)

第九條 海軍大臣ハ志願兵徵募ノ爲海軍志願兵徵募區ヲ定メ鎮守府ヲシテ之ヲ

管セシム

第十條 海軍大臣ハ毎年志願兵トシテ採用スヘキ人員ヲ定メ鎮守府ヲシテ徵募

セシム

附則

第十一條 (削除)

第十二條 海軍志願兵徵募ニ關スル細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十三條 本條例ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治三十一年勅令第八十三號海軍志願兵徵募規則ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

●海軍志願兵徵募細則

(明治三十一年四月二十七日) 海軍省令第三號

三十二年海軍省令第六號三十三年同第六號第十三號第十九號三十

四年同第九號三十五年同第二號三十六年同第五號ヲ以テ本令中改

正

海軍志願兵徵募細則左ノ通改正ス

海軍志願兵徵募細則

第一條 海軍志願兵ハ須用ニ應シ各鎮守府ヲシテ本則ニ依リ徵募セシム但シ軍

樂生ハ當分ノ内横須賀海兵團ニ入團セシム

第二條 海軍志願兵ノ徵募數額及其ノ入團期日ハ海軍大臣之ヲ鎮守府司令長官

ニ告達ス

第八類 海軍志願兵徵募細則

鎮守府司令長官前項ノ告達ヲ受ケタルトキハ志願人員表移牒期日ヲ定メ其ノ期日及志願兵徵募數額ヲ地方長官ニ通知ス

第三條 地方長官前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ管内ニ現住スル者ニシテ海軍志願兵條例第四條ノ年齡(徵募ノ年ノ十二月三十一日ヲ期限トシ計算シタル者ニ適スル者)ヲ出願セシメ島司郡市長ヲシテ之ヲ調査セシメ島郡市及兵種ヲ區別シ志願人員表ヲ作り検査場所ヲ定メ移牒期日迄ニ之ヲ海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

島司郡市長ハ志願者ヲ調査スルニ當リ海軍志願兵條例第五條ニ觸ルル者ナキヤ否ヤヲ審査スヘシ

第四條 徵兵令ニ依リ補充兵役及國民兵役ニ在ル者ハ海軍志願兵タルコトヲ得

第五條 海軍志願兵徵募區ハ左表ニ依ル

| 海軍志願兵徵募區 | 所管鎮守府 | 廳 | 府 | 縣 | 名 | |
|----------|--------|-----|-----|----|----|--------|
| 第一 | 橫須賀鎮守府 | 北海道 | 青森 | 巖手 | 宮城 | 福島 |
| | | 茨城 | 千葉 | 栃木 | 群馬 | 埼玉 |
| | | 東京 | 神奈川 | 山梨 | 靜岡 | 愛知 |
| | | 三重 | | | | 知 |
| 第二 | 吳鎮守府 | 和歌山 | 奈良 | 大阪 | 兵庫 | 但馬國ヲ除ク |
| | | 岡山 | 廣島 | 山口 | 徳島 | |
| | | 香川 | 愛媛 | 高知 | 島 | |
| 第三 | 佐世保鎮守府 | 大分 | 福岡 | 佐賀 | 長崎 | 熊本 |
| | | 鹿兒島 | 宮崎 | 沖繩 | | |
| 第四 | 舞鶴鎮守府 | 秋田 | 山形 | 新潟 | 長野 | 富山 |
| | | 石川 | 岐阜 | 福井 | 滋賀 | 京都 |
| | | 兵庫 | 但馬國 | 鳥取 | 島根 | 一圓 |

第六條 鎮守府司令長官ハ海軍兵志願者検査ノ爲必要ニ應シ兵事官及軍醫官ヲ

第八類 海軍志願兵徵募細則

派出シ左ノ諸員ヲ隨行セシム

上等筆記、筆記若ハ書記

看護長若ハ看護

卒

軍醫官以下諸員ハ兵事官ノ指揮ヲ受ケ服務ス

第七條 地方長官ハ兵事官ノ巡廻ニ先タチ海軍兵役志願人検査所ヲ設ケ島司郡市長ニ達シ検査ノ準備ヲ爲サシムヘシ

第八條 地方長官島司郡市長ハ兵事官ノ巡廻ニ際シ屬書記ヲ派出シ徵募ノ事務ヲ補助セシムヘシ

地方長官ハ豫メ志願者人名簿ヲ整理シ置キ兵事官巡廻ニ際シ屬官ヲシテ之ヲ兵事官ニ出サシムヘシ

第九條 海軍兵役志願人検査所ハ一地方廳管轄地ノ廣狹及志願人ノ多少ニ依リ検査ニ便ナル場所ヲ選ミ概子一郡市ニ一箇所ヲ設ケヘシ

志願人十名ニ滿タサル郡市及一地方管轄地ヲ通シ十名ニ滿タサル地方ニ在テハ検査所ヲ設ケス便宜ノ検査所ニ集メ検査ヲ施行ス但シ地形ニ依リ召集ニ便ナラサルトキハ地方長官ハ鎮守府司令長官ノ承認ヲ得特ニ検査所ヲ設ケルコトヲ得

第十條 兵事官ハ検査所ノ巡廻日割及毎日検査ヲ行フヘキ人員ヲ定メ地方長官ヲ經テ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ検査ノ日時及集合スヘキ検査所ヲ豫メ志願人ニ達スヘシ

第十一條 島司郡市長ハ兵事官ノ巡廻日割ニ依リ志願人ノ検査ヲ受クヘキ日限及順序ヲ定メ志願人ニ告知シ其ノ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願人ヲ引纏メ検査所ニ出頭セシムヘシ

島司郡市長ハ検査ノ日検査所ニ出席スヘシ
検査呼出ニ際シ疾症又ハ事故ニ依リ出頭シ難キ者アルモ之カ爲ニ日時ヲ遷延シ更ニ検査所ヲ開クコトナシ但シ甲地志願人乙地検査所ニ至リ検査ヲ願フ者

第八類 海軍志願兵徵募細則

ハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二條 兵事官ハ軍醫官ヲシテ志願人ノ身體ヲ検査セシムヘシ

第十三條 (削除)

第十四條 志願人ノ採用ハ合格者中甲種ヨリ乙種ニ及ホシ品行及學術ノ甲乙ノ

爲ニ此ノ順序ヲ變セサルモノトス

第十五條 木工鍛冶ニ志願ノ者ハ該職業ニ從事セシ經歷ヲ有スルモノニシテ木

工鍛冶タルニ適スト認メタル者ヨリ採用ス

前項志願人ノ職業及經歷ニ關スル證明書ハ市町村長ヨリ検査ヲ行フ兵事官ニ

出スヘシ

第十六條 軍樂生、看護志願ノ者ハ身體検査ニ合格スト雖モ讀書、作文、算術

ノ試験ニ合格セサレハ採用セス

讀書ハ平易ナル漢字交リ文、作文ハ通俗文、算術ハ四則ヲ解シ得ルヲ以テ程

度トス

第十七條 身體ノ検査及讀書、作文、算術ノ試験ニ合格スト雖モ他ノ原因ニ依

リ兵事官ニ於テ海軍兵ニ適セサル者ト認ムルトキハ採用セサルコトアルヘ

シ

第十八條 兵事官ハ一検査所ノ検査ヲ了リタル後其ノ合格ノ者ニハ島司郡市長

ヲ經テ合格證書ヲ附與ス

合格證書ヲ附與セラレタル者採用以前ニ在テ轉籍、轉住、死亡、逃亡、公權

停止、癱疾、不具等身上ニ異動ヲ生シタル者アルトキハ島司郡市長ハ地方廳

ヲ經由シ速ニ其ノ人名及異動ノ事項(轉籍者、轉住者ハ其ノ轉籍地若ハ轉住

地ヲ詳記スヘシ)ヲ當該鎮守府兵事官ニ通知スヘシ但シ轉籍者、轉住者ニ在

テハ同時ニ其ノ旨ヲ轉籍地若ハ轉住地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

兵事官他鎮守府徵募區ニ轉籍轉住セシ者ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ兵種及

検査成績ヲ轉籍地若ハ轉住地ヲ管スル鎮守府ノ兵事官ニ通知スヘシ

陸軍第一補充兵役ニ在ル者ニシテ第二項ニ該當スルトキハ島司郡市長ハ其ノ

第八類 海軍志願兵徵募細則

旨ヲ當該聯隊區司令官又ハ警備隊(區)司令官ニ通知スヘシ

第十九條 兵事官ハ徵募區内各府縣志願人ノ検査ヲ了ルトキハ前條ノ異動人員ヲ加除シ志願兵検査總人員表ヲ作り司令長官ニ進達スヘシ

第二十條 鎮守府司令長官ハ合格者ニ就キ採用スヘキ人員ヲ定メ採用證書ヲ地方長官ニ送付シ且入團期日ヲ通知スヘシ但シ所管徵募區ニ於テ合格者ノ數所要ノ兵員ニ充タサルトキハ他鎮守府司令長官ニ協議シ補充スルコトヲ得其採用證書送付方及入團期日通知等ノ手續ハ補充ヲ要スヘキ鎮守府司令長官ニ於テ之ヲ爲スモノトス

鎮守府司令長官ハ前項ノ採用人員表ヲ作り第十九條ノ志願兵検査總人員表ト共ニ海軍省ニ送付スヘシ

陸軍第一補充兵役ニ在ル者ニシテ採用證書ヲ附與セラレタルモノアルトキハ鎮守府司令長官ハ入團期日ヲ地方長官ニ通知シ地方長官ハ島司郡市長ヲシテ之ヲ當該聯隊區司令官又ハ警備隊(區)司令官ニ通知セシムヘシ

第二十二條 地方長官採用證書ヲ送付ヲ受ケタルトキハ島司郡市長ヲシテ之ヲ各自ニ附與シ速ニ警約書ヲ出サシムヘシ

第二十一條 本籍地以外ニ於テ第三條ノ出願ヲ爲セシ者合格證書又ハ採用證書ヲ附與セラレ若ハ入團期日ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ都度現住地ニ地方長官ヨリ之ヲ本籍地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第二十二條 地方長官第二十一條ノ手續ヲ了リタルトキハ徵募兵員ヲ便宜ノ場所ニ集メ屬官又ハ郡市町村吏員ヲ附シ入團地ニ至ル期日ヲ計リ出發セシムヘシ但シ五人未滿ナルトキハ單行セシムルコトヲ得

第二十三條 兵員入團ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ入團ノ延期ヲ願フ者アルトキハ鎮守府司令長官ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許スコトアルヘシ
兵員入團スルトキハ海兵團長ハ軍醫長ヲシテ直ニ身體検査ヲ施行セシム此ノ検査ニ於テ疾病ノ爲到底海軍兵役ニ堪ヘ難シト認ムル者アルトキハ身體検査證ヲ添ヘ之ヲ鎮守府司令長官ニ届出ヘシ司令長官ハ審査ノ上兵役ニ堪ヘスト

第八類 海軍志願兵徵募細則

認ムルトキハ之ヲ採用ヲ取消シ海兵團長ヲシテ歸郷セシメ兵事官ヲシテ其ノ旨ヲ地方長官ニ通知シ且本人ノ戶籍謄本及誓約書ヲ市町村長ニ返付セシムヘシ

前項ノ場合及入團後二箇月以内ニ於テ傷疾疾病ニ依リ現役若ハ兵役ヲ免セラレ又ハ死亡等ノ爲新兵ニ缺員ヲ生シタルトキハ其ノ都度補缺員ヲ同兵種ノ合格者ヨリ徵募スルモノトス但シ同鎮守府徵募區内ヨリ補フコト能ハサルトキハ他鎮守府司令長官ヘ協議シ其ノ徵募區内ヨリ補フコトヲ得

補缺徵募兵員ノ採用證書送付方及入團期日ノ通知其ノ他ノ手續ハ一般ノ徵募兵員ニ準ス

第二十四條 地方長官ハ市町村長ヲシテ採用セラレタル者ヨリ其ノ戶籍謄本ヲ徵セシメ第二十一條ノ誓約書ト共ニ之ヲ鎮守府兵事官ニ送付スルシメ

第二十五條 附添入旅費並ニ徵募兵員各自居住ノ地ヨリ入團迄ノ旅費ハ一般徵募兵ノ定期ニ依リ官給ス但シ検査所ヘ往復ノ費用並ニ検査ヲ受ケル爲ニ滞在ノ

費用ハ自辨トス

第二十六條 本規則中島司郡市長ノ職務ハ支廳長若ハ之ニ準スヘキ者並東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區長之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長及之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第二十七條 志願人員表(様式第一)合格證書(様式第二)採用證書(様式第三)誓約書(様式第四)ハ各其ノ様式ニ從ヒ調製ス

附則

第二十八條 本則ハ明治三十一年五月一日ヨリ施行ス
(様式略ス)

●海軍出身志願者身體検査格例

(明治三十五年二月十三日)
海軍省令第一號

海軍出身志願者身體検査格例左ノ通定ム

第八類 海軍出身志願者身體検査格例

海軍出身志願者身體檢查格例

第一條 海軍出身志願者身體檢查ニ於テ合格トスヘキモノ左ノ如シ

一 甲種 身體強健精神異常ナク全身ノ發育對稱完全ニシテ海軍軍人ノ服役ニ適スルモノ

一 乙種 甲種ニ亞クモノ

第二條 左ノ各號ニ該當スルモノハ不合格トス

- 一 高等武官、各候補生、學生（軍醫學生、藥劑學生、主計學生、造船學生、造兵學生ヲ云フ以下同シ）生徒（兵學校生徒、機關學校生徒ヲ云フ以下同シ）筆記志願ノモノニ在テハ身長五尺體重十二貫目、胸圍二尺五寸三分、胸廓擴張一寸八分、活量二千八百立方仙迷（百七十一立方英寸）ニ達セサルモノ但シ生徒志願ノモノニシテ十七年未滿（檢查時ノ年齢以下同シ）ナル者キハ體重十一貫五百目胸圍二尺四寸八分以上ニシテ發育ノ見込アルモノハ合格ト爲スコトアルヘシ

二 水兵、機關兵、鍛冶、看護志願ノモノニ在テハ身長五尺二寸、體重十二

貫目、胸圍二尺六寸、胸廓擴張二寸、活量三千立方仙迷（百八十三立方英寸）ニ達セサルモノ但シ檢查時ニ於テ十七年未滿ナル者キハ身長五尺

一寸五分、體重十二貫五百目、胸圍二尺五寸五分以上、十八年未滿ナル

者キハ身長五尺一寸七分、體重十二貫七百目、胸圍二尺五寸七分以上ニ

シテ發育ノ見込アルモノハ合格ト爲スコトアルヘシ

三 木工、主厨志願ノモノニ在テハ身長五尺、體重十二貫五百目、胸圍二尺

五寸五分、胸廓擴張一寸八分、活量三千立方仙迷（百八十三立方英寸）ニ

達セサルモノ

四 軍樂生志願ノモノ十七年未滿ニ在テハ身長五尺、體重十二貫目、胸圍二

尺五寸、胸廓擴張一寸八分、活量二千八百立方仙迷（百七十一立方英寸）

滿十七年以上ニ在テハ身長五尺一寸、體重十二貫五百目、胸圍二尺五寸

五分、胸廓擴張二寸、活量二千九百立方仙迷（百七十七立方英寸）十八年

第八類 海軍出身志願者身體檢查格例

- 以上ニ在テハ身長五尺二寸、體重十三貫目、胸圍二尺六寸、胸廓擴張ニ寸、活量三千立方仙迷(百八十三立方英寸)ニ達セサルモノ
- 五 身長、體重、胸圍及活量、前諸號ノ規定ニ達スルモ著シク其ノ交互ノ對稱ヲ失スルモノ
- 六 身體發育ノ不全、體質ノ薄弱、傷疾疾病ニ起因スル全身衰弱
- 七 白痴、精神異常、言語障礙、知覺及運動麻痺
- 八 全身皮膚殊ニ頭皮ノ慢性病、腋臭、黴毒及外傷等ノ癍痕著シキモノ
- 九 頭部、面部、頸部ノ畸形及著シキ醜形、頭蓋骨折傷、陷凹、斜頸、頸腺ノ腫大
- 十 視力二十ノ二十三達セサルモノ、識色不全、斜視、淚管瘻、眼瞼下垂或ハ翻轉、但シ軍醫官、藥劑官、主計官、造船官、造兵官、少軍醫候補生、少藥劑士候補生、少主計候補生及學生志願ノモノニ在テハ視力五十ノ二十以下、筆記志願ノ者ニ在テハ視力三十ノ二十以下ノ近視ハ合格トナス

コトアルヘシ

- 十一 聾、聽力遲鈍、鼓膜鼓室ノ疾病
- 十二 鼻骨鼻軟骨ノ疾病、鼻茸、鼻粘膜ノ慢性病
- 十三 咽喉、口峽、口蓋及舌ノ疾病、齒齦及齒質不良若ハ齒數不足(大齲齒在ニテハ三箇以上其ノ他ノ齒牙ニ在テハ大齲齒ヲ併セ五箇以上ノ齲蝕又ハ缺亡但シ高等武官、各候補生、學生、生徒志願ノ者ニ在テハ齲蝕又ハ缺亡之ヨリ超過スルモ上下顎齒牙對向ノ狀況、填塞、義齒裝用ノ有無ヲ酌量シテ合格ト爲スコトアルヘシ) 下顎運動ノ障礙及軍樂生ニ在テハ齒列不正
- 十四 胸廓ノ畸形、扁平、陷沒、呼吸短促、聲音嘶啞、呼吸器及血行器ノ疾病
- 十五 腹部ノ腫脹膨滿、腹輪ノ弛緩、脫腸、胃腸脾肝腎等ノ疾病
- 十六 下疳、淋疾、尿道狹窄、尿道瘻、辜丸副辜丸及精系ノ疾病
- 十七 痔疾、痔瘻、脚肛、扁平「コンヂロマ」

第八類 海軍出身志願者身體檢查格例

十八 四肢ノ薄弱、畸形又ハ傷痕疾病ニ起因スル歪形、關節運動ノ障碍、靜脈怒脹、著シキ扁平足

十九 脊梁及骨盤ノ畸形又ハ傷痕疾病ニ起因スル歪形、運動ノ障碍

二十 前諸號ノ外急治ノ目的ナキ傷痕疾病

二十一 遺傳性及發作性疾病ノ證據アルモノ

第三條 前條ニ掲グルモノノ内輕症ニシテ風土氣候ニ關セス海軍軍人ノ服役ニ堪ユル見込アルモノハ合格トナスコトアルヘシ

體動ニ障碍ナキ瘦體、肥體、體毛過冗、軀幹若ハ四肢ノ不同膝内彎、膝外彎、齒牙及消食器ノ異常、精系靜脈怒脹等輕度ノモノハ成年者ニ限り合格ト爲スコトアルヘシ

第四條 高等武官、各候補生、學生、志願ノモノニ在テハ第二條第六號以下ノ諸狀況アルモ其ノ輕度ノモノハ職務ヲ參酌シテ合格ト爲スコトアルヘシ

●海軍志願兵其家族ノ異動報告ノ件

(明治三十七年二月二十日)
海軍省令第四號

市町村長(東京市、京都市、大阪市ハ區長)又ハ之ニ準スヘキ者ハ海軍志願兵及其ノ家族ニシテ左ノ事項ニ當ル者アルトキハ志願兵在籍鎮守府所在地ノ海軍經理部ニ報告スヘシ

一 戶籍ニ異動アルトキ

二 轉籍ヲ爲シタルトキ

三 家族所在不明ト爲リタルトキ

四 所在不明ノ家族所在判明セシトキ

海軍志願兵ノ家族轉居シタルトキハ其ノ家族ハ直ニ志願兵在籍鎮守府所在地ノ海軍經理部ニ届出ヘシ

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八類 海軍志願兵及其家族ノ異動報告ノ件

●陸海軍刑法

●陸軍刑法

(明治十四年十二月二十八日
第六十九號布告)

陸軍刑法別冊ノ通改定シ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別冊)

陸軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ

處斷ス

第三條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士諸卒ヲ謂フ

第四條 軍屬ト稱スルハ陸軍出仕ノ文官其他總テ宣誓若クハ讀法ノ式ニ由リ陸

軍ニ從事スル者ヲ謂フ

第五條 司令官ト稱スルハ一軍一團其他一部隊ト雖モ總テ其司令ニ任スル者ヲ

謂フ

第六條 哨兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ

第七條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ權ヲ

有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ上等卒及ヒ上等卒ノ職ヲ奉スル者其部下

ニ於ル亦之ニ準ス

第八條 將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ

第九條 軍屬及ヒ陸軍所屬ノ諸生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第十條 親屬ト稱スルハ普通刑法第一百四條第一百五條ニ記載スル者ヲ謂フ

第八類 陸軍刑法

第十一條 豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ於テ處斷スル事ヲ得
 得ズ但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス
 第十二條 第八十條第八十一條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第
 九十條第一項第九十五條第百五條第百十一條第百十二條第百十三條第百十四
 條第百十五條第百十六條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法
 ニ依テ處斷ス(二十一年法律第三號改正ニ依ル)
 第百六條第百七條第百十七條第百十八條第百十九條第百二十條ノ罪ヲ犯サシ
 ハル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同ク論ス
 第十三條 敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ第五十三條第五十四條第五十六
 條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯
 ス者ハ軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ陰謀ニ止マル者
 ハ第六十二條第六十三條ニ照シテ處斷ス
 第十四條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷スル者ハ普通刑法第三編第一章ニ

照シ重キニ從テ處斷ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第十五條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十六條 左ニ掲グル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
 - 二 無期徒刑
 - 三 有期徒刑
 - 四 無期徒刑
 - 五 有期流刑
 - 六 重懲役
 - 七 輕懲役
- 第八類 陸軍刑法

八 重禁獄

九 輕禁獄

第十七條 左ニ掲グル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

第十八條 左ニ掲グル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 剝官

三 停止公權

四 (三十一年法律第十二號ヲ以テ削除)

五 監視

六 沒收

第十九條 陸軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ皆之ヲ銃殺ス

第二十條 死刑ハ陸軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

軍中若クハ合圍ノ地ニ於テ特權ヲ有スル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第二十一條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十二條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十三條 懲役ハ懲役場ニ入レ定役ニ服ス

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁獄ハ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十五條 禁錮ハ禁錮場ニ入レ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區

第八類 陸軍刑法

別ス

第二十六條 普通刑法第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十一條
第二十二條第二十五條ニ記載スル所ノ主刑處分ノ例ハ此ノ刑法ニ於テ之ヲ適
用ス

第二十七條 陸軍法衙ニ於テ普通刑法ニ依リ罰金科料ニ處スル者限内納完セス

禁錮拘留ニ換フル時ハ更ニ裁判ヲ用ヒテ理事ノ求メニ因リ裁判長之ヲ命ス

第二十八條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條ニ記載スル所ノ權ヲ剝奪ス

第二十九條 重罪ノ刑ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒテ終身公權ヲ剝奪ス

第三十條 剝奪公權ハ宣告シテ將校ノ官職ヲ褫奪ス

下士上等卒軍屬其他ノ官吏此ノ刑法ノ罪ヲ犯シ將校ニ在テ剝奪公權ヲ附加スル刑

ニ該時ハ別ニ宣告ヲ用ヒテ其ノ官職ヲ失フ

第三十一條 禁錮ニ處スル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒテ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停
止ス

第三十二條 普通刑法第三十四條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第

四十一條第四十三條第四十四條ニ記載スル所ノ附加刑處分ノ例ハ此刑法ニ於

テ之ヲ適用ス(二十一年法律第十二號ヲ以テ本條中削除)

第三十三條 下士上等卒ハ此刑法及ヒ普通刑法若クハ海軍刑法ニ依リ禁錮ニ處

シ官職ヲ失フト雖モ兵役ヲ免セス其失フ所ノ官職ハ主刑終ルノ日ヨリ六月ヲ

經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ之ヲ復スルコトヲ得

第三十四條 下士諸卒ハ此刑法及ヒ普通刑法海軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ

若クハ主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第三十五條 普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第

五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第

六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條ニ記載スル所ノ刑期計

算假出獄期滿免除復權ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス

第三章 加減例

第八類 陸軍刑法

第三十六條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ掲ケル所ノ例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第三十七條 第八十七條第八十八條第八十九條第一百十八條第一百十九條第一百二十條第一百二十一條ニ掲ケル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス(二十三年法律第十五號改正ニ依ル)

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第三十八條 第二編第一章第二章第三章第四章第七章及ヒ第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十六條ニ掲ケル所ノ重罪ノ刑加減ス可キ時ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス(同上)

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

第三十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁獄ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ當ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第四十條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス

第四十一條 禁錮ニ該ル者加重ス可キ時ハ其刑期四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス其減輕ス可キ時亦四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲ス

禁錮ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下

第八類

陸軍刑法

二降スコトヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス
若シ減輕シテ十日以下ニ處スル時ハ重禁錮ト雖モ定役ニ服セス

第四十二條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ
除棄ス

第四十三條 剝官ハ其主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス但十日以下ノ禁
錮ニ處スル時ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條
第八十條第八十一條第八十二條第八十五條第八十九條第九十條第九十二條第
九十三條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條第九十九條ニ記載スル

所ノ不論罪減輕再犯加重加減順序ノ例ハ此刑法ニ於テ之ヲ適用ス但此刑法ニ
特例アル者ハ此限ニ在ラス

第四十五條 再犯加重ハ再ヒ此刑法ノ罪ヲ犯スニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得
ズ

第四章 數罪俱發

第四十六條 二罪以上俱ニ發スル時若クハ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經餘罪後ニ

發スル時ハ普通刑法第百條第百一條第百二條第百三條ニ記載スル所ノ數罪俱
發ノ例ヲ適用ス但此刑法剝官ヲ附加セサル禁錮ノ罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及

七海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ノ罪ト俱ニ發シ剝官ヲ
附加セサル禁錮ニ處スル時ト雖モ將校ハ仍ホ剝官ヲ附加シ下士上等卒軍屬其
他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第五章 數人共犯

第四十七條 軍人二人以上共ニ此刑法ノ罪ヲ犯ス時ハ普通刑法第百四條第百五

條第百六條第百七條第百八條第百九條第百十條ニ記載スル所ノ數人共犯ノ例
ヲ適用ス但第六十七條第七十七條第七十八條第八十一條第八十三條第八十四
條第八十五條第百十九條第百二十五條ニ掲グル所ノ罪ヲ論スル時從犯ハ首魁

ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス(二十二年法律第十五號改正ニ依ル)

第八類 陸軍刑法

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷ス
ト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第十二條第十三條ニ
依リ此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第六章 未遂犯罪

第四十九條 此刑法ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法第百十二條
第百十二條第百十三條ニ記載スル所ノ未遂犯罪ノ例ヲ適用ス

第二編 重罪輕罪

第一章 反亂

第五十條 軍人黨ヲ結ビ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲ス者首魁教唆者及ヒ群衆ヲ指
揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事スル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職
務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス
諸般ノ職務ヲ司リ若クハ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給スル者ハ有期流刑ニ
處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

附和シテ其事ニ服行スル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十一條 軍人反亂ヲ爲スコトヲ謀リ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠スル者

前條ノ刑ニ同シ

第五十二條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故ヲニ鎮撫ノ官吏ヲ殺ス者ハ死刑ニ
處ス

第五十三條 軍人敵ヲ利スル爲メ部下ノ兵隊若クハ軍事ニ關スル土地家屋船舶
及ヒ兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

第五十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用
ニ供ス可キ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ若クハ祕密ヲ要スル兵器彈藥ノ製法其
他軍機軍情ヲ漏洩スル者ハ死刑ニ處ス(二十一年法律第三號ヲ以テ改正)

第五十五條 軍人敵圍ヲ受クルノ地ニ於テ其司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシ
テ黨ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス

第五十六條 軍人敵前ニ在テ隊兵ノ潰走ヲ誘起シ若クハ其連絡集合ヲ妨害スル
第八類 陸軍刑法

者ハ死刑ニ處ス

第五十七條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募ル者ハ死刑ニ處ス

第五十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ軍事ニ關スル家屋船舶及ヒ壘柵兵器彈藥其他

軍需ノ物品若クハ戰鬪ノ用ニ供ス可キ道路橋梁森林瀛車電線ヲ毀壞シ若クハ

火ヲ放テ之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥其他軍需物品ノ缺乏ヲ致ス者ハ死刑

ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲ス者ハ死刑ニ處

ス

第六十一條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ

逃走セシメ及ヒ劫奪スル者ハ死刑ニ處ス

敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通スル者亦同シ

第六十二條 軍人前數條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者及ヒ其

豫備ヲ爲ス者ハ各本條ニ照シ一等ヲ減ス

其陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ二等ヲ減ス

第六十三條 軍人前數條ニ掲クル所ノ罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲

スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首スル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年

以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十四條 軍人情ヲ知テ前數條ニ掲クル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸ス者ハ

二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監

視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 抗命

第六十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シ若クハ服從セサル者敵

前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝

第八類 陸軍刑法

百六十五

官ヲ附加ス其他ノ地ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者敵前ニ在テハ皆死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ二年以上

五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ首魁ハ輕禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ二月以上二年以下ノ輕禁

錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第六十八條 軍人暴行ヲ爲スニ當リ上官之ヲ制止シ其命ニ從ハサル者ハ二月以

上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第三章 擅權

第六十九條 司令官講和ノ告示若クハ停戰ノ命令ヲ受ケ仍ホ戰鬪ノ所爲ヲ止メ

サル者ハ死刑ニ處ス

第七十條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サルノ理由ナ

クシテ擅ニ兵隊ヲ進退スル者ハ死刑ニ處ス

第七十一條 司令官擅ニ人ヲ募リ部伍ニ充ル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ

處シ剝官ヲ附加ス

第四章 辱職

第七十二條 要塞司令官若クハ要塞特命司令官其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ敵ニ

降リ若クハ所轄ノ地ヲ敵ニ付スル者ハ死刑ニ處ス

堡砦ノ地ニ於テ其司令官之ヲ犯ス者亦同シ

第七十三條 司令官野戰ノ時ニ在テ隊兵ヲ率井敵ニ降ル者ハ一月以上六月以下

ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

若シ其盡ス可キ所ヲ盡サスシテ降ル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 將校敵前ニ在テ盡ス可キ所ヲ盡サスシテ遁走スル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡ササル者ハ

三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第八類 陸軍刑法

第五章 暴行

第七十六條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十七條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十八條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯ス者ハ各ニ等ヲ加フ

第七十九條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲ス者ハ死刑ニ處ス上官ノ軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ暴行ヲ爲ス者亦同シ

第八十條 軍人哨兵ニ對シ暴行ヲ爲ス者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ有期流刑ニ處ス

第八十二條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ重禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者ハ重禁獄ニ處ス

第八十三條 軍人二人以上共ニ前條ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ輕禁獄ニ處シ其他ノ犯人ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用フル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ犯人ハ重禁獄ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシムル時ハ有期流刑ニ處ス

第八十四條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ

刑ニ處ス

第八類 陸軍刑法

百六十九

處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 軍人多衆結合シテ相鬪毆スル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮

ニ處シ其他ノ犯人ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十六條 軍人俘虜降人ヲ切奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助クル者ハ

重禁獄ニ處ス

第八十七條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪スル者ハ重懲役ニ處シ因

テ殺傷スル者ハ死刑ニ處ス

第八十八條 軍人軍用ノ工廠船舶及ヒ軍需ノ物品ヲ貯藏スル倉庫者クハ現ニ戰

闘ノ用ニ供スル家屋壘柵橋梁瀛車電線ヲ毀壞スル者ハ重懲役ニ處シ火ヲ放テ
之ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

第八十九條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ火ヲ放チ露積スル所ノ兵

器彈藥軍糧陣營具被服ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ重懲役ニ處ス

第九十條 軍人兵器彈藥軍糧陣營具被服ヲ棄毀シ若クハ軍用ノ馬匹ヲ殺傷スル

者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其官給ニ係ル物品ヲ棄毀スル者ハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ

剝官ヲ附加ス

第九十一條 軍人操練ノ際若クハ禮砲號砲ヲ發スル時瓦石等ヲ裝填シテ發射ス

ル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス(二十三年法律第十五號ヲ以テ本條

改正)

哨兵衛兵妄リニ銃砲ヲ發スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

本條第一項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷

ス

第九十二條 軍人職權ヲ妄用シテ人ヲ監禁制縛シ其他陵虐ノ所爲アル者ハ一月

以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス(同上)

第六章 侮辱

第八類 陸軍刑法

第九十三條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上官ノ公務ヲ行フ時ニ於テスル者ハ二等ヲ加フ
第九十四條 軍人文書圖畫ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀スル者ハ二月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十五條 軍人哨兵ヲ罵詈若クハ侮慢スル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十六條 軍人同等若クハ下等ノ者軍務ヲ行フニ當リ之ニ對シ罵詈若クハ侮慢スル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七章 違令

第九十七條 軍人哨兵ニ對シ哨令ヲ犯ス者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
第五十八條 軍人擅ニ哨令ヲ變更シ若クハ之ニ違フ者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十九條 哨兵擅ニ其守地ヲ離ルル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其他ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
第一百條 哨兵睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八類 陸軍刑法

其他ノ地ニ在テハ十一月以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百一條 軍人現ニ軍務ニ服シ擅ニ其地ヲ離ルル者敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

官ヲ附加ス 其他ノ地ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

長官之ヲ犯ス時ハ各一等ヲ加フ

第一百二條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ急呼ノ號報アル時故ナク來會セ

サル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百三條 軍人戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ兵器彈藥軍糧ノ運搬支給ヲ掌

故ナク其缺乏ヲ致ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百四條 司令官命令ニ從フコトヲ得サル時部署若クハ其命セラルル所ノ事ヲ

變更シ直チニ之ヲ申報セサル者ハ二月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其事變ニ因リ暗號記號ヲ改メ直チニ之ヲ申報セサル者亦同シ

第一百五條 軍人祕密ヲ要スル圖書兵器彈藥ノ製法其他軍事ニ關スル機密ヲ洩

スル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス（二十一年法

律第三號ヲ以テ改正）

第一百六條 軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レ十日ヲ過ル者ハ二

月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

戰時ニ在テ五日ヲ過ル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百七條 徵兵故ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ十一月以上六月以下ノ

輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ

一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ二月以上二年

以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百八條 軍人前條ノ罪ヲ犯サシムル者ハ數人共犯ノ例ニ照シテ處斷ス

第一百九條 軍人反亂ノ罪ヲ犯サントスル者アルヲ知テ申告セサル者ハ一月以上

第八類 陸軍刑法

二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百十條 軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シ又ハ講談論說シ若クハ文書ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百十一條 軍人敵前軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ在テ造言飛語ヲ爲ス者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百十二條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯ス時ハ重禁獄ニ處ス

第百十三條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若クハ逃走ノ方法ヲ指示スル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯ス時ハ輕禁獄ニ處ス

第百十四條 軍人前三條ニ掲グル所ノ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未

遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百十五條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致ス者ハ十日以上一月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百十六條 軍人逃走ノ俘虜降人タルヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第八章 逃亡

第百十七條 軍人擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離レ六日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス新兵入營三月ニ滿サル者ハ同等ヲ減ス

戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ在テ三日ヲ過クル者ハ逃亡ト爲シ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第百十八條 軍人敵前ニ在テ擅ニ職役若クハ屯營本隊ヲ離ルル者ハ逃亡ト爲シ

第八類 陸軍刑法

百七十七

輕懲役ニ處ス

第一百十九條 軍人四人以上共ニ逃亡ノ罪ヲ犯ス者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス戰時軍中若クハ合圍ノ地ニ於テハ輕懲役ニ處シ敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

其他ノ犯人ハ第一百十七條第一百十八條ニ照シテ處斷ス

第一百二十條 軍人敵ニ奔ル者ハ死刑ニ處ス

第九章 詐偽

第一百二十一條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付スル者ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致ス者ハ有期徒刑ニ處ス

第一百二十二條 軍人斥候偵察ノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シ若クハ傳令使命令ヲ詐リ傳フル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百二十三條 陸軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷疾及ヒ身體強弱ノ偽證ヲ爲ス者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

其囑託ヲ爲シタル軍人亦同シ

第一百二十四條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ兵役ヲ免ルルコトヲ圖ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者戰時ニ於テ前項ノ所爲ヲ以テ召集ヲ免ルルコトヲ圖ル者亦同シ

第十章 結黨

(二十三年法律第十五號ヲ以テ本章追加)

第一百二十五條 軍人黨ヲ結ビ軍事ニ關スル規則命令ノ施行ヲ妨ケ若クハ之ヲ妨ケント謀リ其他服從法ニ違フ者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ犯人ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百二十六條 軍人前條ニ記載スル所爲ヲ首唱教唆シ未タ黨ヲ爲スニ至ラサルトキ其首唱教唆者ノ刑ハ前條首魁ノ刑ニ一等若クハ二等ヲ減シ將校ハ剝官ヲ附加ス

●臨時陸軍軍法會議並其管轄地内ニ於ケル陸軍刑

法ノ適用ニ關スル件

(明治二十八年六月二十九日勅令第九十二號)

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ極密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ臨時陸軍軍法會議並其ノ管轄地内ニ於ケル陸軍刑法ノ適用ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條 戰時若クハ事變ニ際シ特設又ハ分駐セル陸軍軍衛若ハ陸軍團隊ニハ必要ニ應シ臨時陸軍軍法會議ヲ設ケルコトヲ得

事平定ノ後ト雖仍引續キ前項ノ軍衛又ハ團隊ヲ置クトキハ臨時陸軍軍法會議ヲ設ケルコトヲ得

第二條 臨時陸軍軍法會議ノ管轄ハ特設軍衛又ハ分駐團隊ノ管轄若クハ守備地方ヲ以テ管轄トシ其ノ構成權限及治罪ニ關スル諸般ノ規定ハ本令ニ於テ特ニ定メタルモノヲ除ク外陸軍治罪法合圍ノ地ノ軍法會議ノ例ニ依ル

第三條 臨時陸軍軍法會議ハ管轄地内ニ在ル常入ノ犯罪及他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ノ犯罪ヲ審判スルコトヲ得但高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 臨時陸軍軍法會議ヲ設ケタル軍衛ノ長官若クハ團隊ノ長ノ其ノ軍法會議ニ關スル職權ハ陸軍治罪法第四條ノ長官ニ同シク其ノ副官及其ノ職務副官ト同シキ者ノ陸軍檢察ニ關スル職權ハ陸軍治罪法第三十一條ノ諸官ニ同シ

第五條 臨時陸軍軍法會議ノ管轄地内ニ於テ陸軍刑法第五十三條第五十四條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條ニ掲ケル所ノ罪ヲ犯ス者ハ軍人ニ非スト雖陸軍刑法ニ依テ處斷ス但其ノ豫備若クハ陰謀ニ止メル者ハ陸軍刑法第六十二條第六十三條ニ照シテ處斷ス

第六條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●海軍刑法 (明治十四年十二月二十八日第七十號布告)

第八類 臨時陸軍軍法會議並其管轄地内ニ於ケル 百八十一
陸軍刑法ノ適用ニ關スル件 海軍刑法

海軍刑法別冊ノ通改定シ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

海軍刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 此刑法ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

第二條 此刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ

處斷ス

第三條 第八十四條第九十二條第九十三條第九十八條第九十九條第一百二條第百

四條第百五條第百六條第百七條第百八條第百二十七條第百二十八條第百二十

九條第百三十條第百三十一條第百三十二條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍

人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス(二十一年法律第四號改正ニ依ル)

教唆若クハ幫助シテ第百三十三條第百三十四條第百三十五條ノ罪ヲ犯サシメ

タル者ハ軍人ニ非スト雖モ亦軍人ト同シク論ス

第四條 敵前軍中ニ在テ第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條

第六十四條第六十五條第六十七條第六十八條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ

軍人ニ非スト雖モ此刑法ニ依テ處斷ス但其豫備若クハ隱謀ニ止マル者ハ第六

十九條第七十條ニ照シテ處斷ス

第五條 此刑法ノ罪ヲ犯スニ因リ人ヲ殺傷シタル者ハ普通刑法第三編第一章ニ

照シ重キニ從テ處斷ス但第五十八條第九十九條第百三十七條ニ記載シタル者

ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第八類 海軍刑法

第二節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス(一)死刑(二)無期徒刑(三)有期徒刑(四)無期流刑(五)有期流刑(六)重懲役(七)輕懲役(八)重禁獄(九)輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス(一)無期徒刑(二)有期徒刑(三)無期流刑(四)有期流刑(五)重懲役(六)輕懲役(七)重禁獄(八)輕禁獄

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス(一)剝奪公權(二)剝官(三)停止公權(四)三十一(三十一)年法律第十一號ヲ以テ削除(五)監視(六)沒收

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス

第十一條 死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者亦同シ

第八類 海軍刑法

一 重禁錮

二 輕禁錮

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 剝官

三 停止公權

四 (三十一)年法律第十一號ヲ以テ削除

五 監視

六 沒收

第二節 主刑處分

第十條 主刑ハ之ヲ宣告ス

第十一條 死刑ハ銃ヲ以テ射殺ス普通刑法ニ從ヒ海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者亦同シ

第八類 海軍刑法

第十二條 海軍法衙ニ於テ死刑ニ處スル者ハ海軍卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

若シ臨時死刑ヲ行フ權ヲ付與セラレタル者アル時ハ其命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第十三條 前二條ニ記載シタルノ外死刑ノ處分ハ普通刑法第十四條第十五條第十六條ノ例ニ同シ

第十四條 徒刑流刑懲役禁獄及ヒ禁錮ハ普通刑法第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ノ例ニ同シ

第十五條 定役ニ服スル囚人ニ工錢ヲ分與スルノ法ハ普通刑法第二十五條ノ例ニ同シ

但此刑法及普通刑法陸軍刑法ノ禁錮ニ處シ職役ヲ免セサル者ハ工錢ヲ與フルノ限ニ在ラス(二十三年法律第十二號ヲ以テ但書追加)

第三節 附加刑處分

第十六條 附加刑ハ此刑法ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第十七條 剝奪公權ハ普通刑法第三十一條第三十二條ノ例ニ同シ

第十八條 剝官ハ將校ノ刑トシ之ヲ宣告ス

軍屬其他ノ官吏剝官ヲ附加スル刑ニ該ル時ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第十九條 將校重禁錮ニ處スル者ハ剝官ヲ附加ス輕禁錮ニ處スル者ハ各本條ニ

記載シタルノ外之ヲ附加スルコトヲ得ス

其剝官ヲ附加スル者ハ主刑ヲ減輕スル時ト雖モ仍ホ之ヲ附加ス

第二十條 普通刑法及ヒ陸軍刑法ニ從ヒ禁錮ニ處スル者ト雖モ下士卒ハ其職役

ヲ免セス

第二十一條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

第二十二條 (二十一年法律第十二號ヲ以テ削除)

第二十三條 監視ハ普通刑法第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十

第八類 海軍刑法

一條ノ例ニ同シ

輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者及ヒ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者ハ
普通刑法第三十四條ノ例ニ同シ

第二十四條 下士卒ハ此刑法及ヒ普通刑法陸軍刑法ノ輕罪ヲ犯シ監視ニ付シ若
クハ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付ス可キ時ト雖モ監視ニ付セス

第二十五條 沒收ハ普通刑法第四十三條第四十四條ノ例ニ同シ

第四節 刑期計算

第二十六條 刑期計算ハ普通刑法第四十九條第五十條第五十一條第五十二條ノ
例ニ同シ

第五節 假出獄

第二十七條 假出獄ハ普通刑法第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第
五十七條ノ例ニ同シ

第六節 期滿免除

第二十八條 期滿免除ハ普通刑法第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第
六十二條ノ例ニ同シ

第七節 復權

第二十九條 復權ハ普通刑法第六十三條第六十四條第六十五條ノ例ニ同シ

第三章 加減例

第三十條 此刑法ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照
シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

第三十一條 第九十九條第四百條第五百條第六條第七條第三百三十三條第百
三十四條第百三十五條第百三十七條ニ記載シタル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シ
テ加減ス(二十八年法律第十九號改正ニ依ル)

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

第八類 海軍刑法

四 重懲役

五 輕懲役

第三十二條 前條ニ記載シタル各條ノ外重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期流刑

三 有期流刑

四 重禁獄

五 輕禁獄

第三十三條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

第三十四條 禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期四分ノ一ヲ

減輕スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス但加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス

禁錮ハ加ヘテ七年ニ至リ減シテ十日以下ニ降スコトヲ得其減シ盡ス時ト雖モ仍ホ一日以上十日以下ノ禁錮ニ處ス但重禁錮ト雖モ十日以下ニ處スル時ハ定役ニ服セス

第三十五條 禁錮ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第三十六條 重罪ノ刑ヲ減輕シテ禁錮ニ處スル時將校ハ剝官ヲ附加ス輕罪ノ刑ヲ減輕スル時ト雖モ本刑剝官ヲ附加スル者ハ仍ホ之ヲ附加ス但減シテ十日以下ノ禁錮ニ處スル時ハ此限ニ在ラス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第三十七條 不論罪及ヒ宥恕減輕ハ普通刑法第七十五條第七十六條第七十七條

第八類 海軍刑法

第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條ノ例ニ同シ

第三十八條 此節ニ記載シタルノ外特別ノ不論罪ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

第二節 自首減輕

第三十九條 自首減輕ハ普通刑法第八十五條第八十八條ノ例ニ同シ

第三節 酌量減輕

第四十條 重罪輕罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得

此刑法ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

其酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第四十一條 再犯加重ハ普通刑法第九十一條第九十二條第九十四條第九十五條第九十七條第九十八條ノ例ニ同シ

第四十二條 再犯ハ初犯ノ罪此刑法ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ之ヲ論ズルコトヲ得ス

第六章 加減順序

第四十三條 加減順序ハ普通刑法第九十九條ノ例ニ同シ

第七章 數罪俱發

第四十四條 數罪俱發ハ普通刑法第一百條第一百二條第一百三條ノ例ニ同シ

第四十五條 此刑法ノ罪ト普通刑法又ハ陸軍刑法ノ罪ト俱ニ發シタル時亦一ノ重キニ從テ處斷ス

第四十六條 此刑法ノ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ該ル罪ト剝官ヲ附加スル禁錮及

七陸軍刑法ノ剝官ヲ附加スル禁錮若クハ普通刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト俱ニ發シタル時ニ在テハ剝官ヲ附加セサル禁錮ニ處スルト雖モ仍ホ剝官ヲ附加シ軍屬其他ノ官吏ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其官職ヲ失フ

第八章 數人共犯

第八類 海軍刑法

第四十七條 數人共犯ハ普通刑法第四百四條第四百五條第四百六條第四百七條第四百八條
第四百九條第四百十條ノ例ニ同シ但此刑法第八十七條第八十九條第九十條第九十
三條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百零一條ノ例ニ同シ
時從犯ハ首魁ニ非サル正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第四十八條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共犯ニ係ル時軍人ハ此刑法ニ依リ處斷ス
ト雖モ軍人ニ非サル者ハ普通刑法ニ照シテ其罪ヲ論ス但第三條第四條ニ依リ
此刑法ヲ以テ處斷ス可キ者ハ此限ニ在ラス

第九章 未遂犯罪
第四十九條 未遂犯罪ハ普通刑法第一百一十一條第一百一十二條第一百一十三條ノ例ニ同シ
第十章 名稱例
第五十條 軍人ト稱スルハ將官及ヒ同等官上長官士官下士卒ヲ謂フ
將校同等ノ軍人ハ總テ將校ニ同シ
豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルコトヲ得ス但此

刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス(二十三年法律第十二號ヲ以テ追加)
第五十一條 軍屬ト稱スルハ海軍出仕ノ文官其他海軍ニ從事スル者ヲ謂フ
軍屬及ヒ海軍所屬ノ生徒ハ總テ軍人ニ同シ

第五十二條 司令官ト稱スルハ數隻又ハ一隻ノ艦船數所又ハ一所ノ屯營ヲ指揮
スル者及ヒ分遣ノ兵隊若クハ數隻ノ端舟ヲ指揮スル者ヲ謂フ

第五十三條 上官ト稱スルハ官等ノ上ナル者ヲ謂フ同等ト雖モ命令ヲ下ス可キ
權ヲ有スル者其部下ニ於テハ上官ニ同シ卒ニシテ臨時下士ノ職ヲ奉スル者其
部下ニ於ケル亦之ニ準ス

第五十四條 守兵ト稱スルハ儀仗若クハ警戒ノ爲メ守地ニ在ル者ヲ謂フ
第五十五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第一百四十四條第一百五條ノ例ニ同シ

第二編 重罪輕罪
第一章 反亂
第五十六條 軍人黨ヲ結ヒ擅ニ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ
第八類 海軍刑法
百九十五

處斷ス

百九十六

一 首魁教唆者及ヒ群衆ノ指揮ヲ爲シ若クハ樞要ノ職務ニ從事シタル者ハ死刑ニ處ス其指揮ヲ爲シ樞要ノ職務ニ從事スト雖モ情狀輕キ者ハ無期流刑ニ處ス

二 諸般ノ職務ヲ司トリ若クハ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ資給シタル者ハ有期流刑ニ處シ其情狀輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

三 附和シテ其事ニ服行シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五十七條 軍人反亂ヲ爲スコトヲ謀リ艦船兵器彈藥其他軍需ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ刑ニ同シ

第五十八條 軍人前二條ノ罪ヲ犯スニ因リ故サラニ鎮撫ノ官吏ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第五十九條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船兵隊港灣堡塞造船所造兵所武庫火藥庫兵器彈藥糧餉其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十條 軍人敵ヲ利スル爲メ土地道路ノ要害險夷ヲ指示シ若クハ攻守ノ用ニ供スヘキ圖書及ヒ暗號記號ヲ開示シ若クハ祕密ヲ要スル兵器彈藥ノ製法其他

軍機軍情ヲ洩洩シタル者ハ死刑ニ處ス(二十一年法律第四號ヲ以テ改正)

第六十一條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船屯營造船所造兵所兵器彈藥糧餉其他軍用ニ供ス可キ物件ヲ毀壞シ又ハ火ヲ放チテ之ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十二條 軍人敵ヲ利スル爲メ兵器彈藥糧餉其他軍需物品ノ缺乏ヲ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十三條 軍人敵ノ爲メニ兵ヲ募リタル者ハ死刑ニ處ス

第六十四條 軍人敵ヲ利スル爲メ音信ヲ敵ニ通シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十五條 軍人敵ノ間諜ヲ誘導助成隱匿シ若クハ敵ヲ利スル爲メ俘虜降人ヲ逃走セシメ又ハ切奪シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十六條 軍人黨ヲ結ヒ司令官ヲ要シ敵ニ降ラシメントシタル者ハ死刑ニ處ス

第六十七條 軍人敵ヲ利スル爲メ艦船若クハ兵隊ノ聯絡集合ヲ妨害シ又ハ兵隊ノ潰走ヲ誘起シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十八條 軍人敵ヲ利スル爲メ叫呼喧噪シ若クハ造言飛語ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

第六十九條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者及ヒ其豫備ヲ爲シタル者ハ本條ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第七十條 軍人前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ其豫備若クハ陰謀ヲ爲スト雖モ未ダ其事ヲ行ハサル前ニ於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第七十一條 軍人情ヲ知テ前數條ニ記載シタル所ノ犯人集會ノ爲メ家屋ヲ貸シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十二條 軍人此章ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二章 辱職

第七十三條 司令官猶ホ防守スルヲ得可キ時ニ於テ敵ニ降ル又ハ其艦船若クハ守地ヲ敵地ニ付シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 司令官戰爭ノ際ニ於テ其盡スヘキ所ヲ盡サヌシテ艦船若クハ兵隊ヲ率ヒ遁走シタル者ハ死刑ニ處ス

第七十五條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ破亡沈没シタル者ハ死刑ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十六條 司令官其艦船破亡沈没スル時ニ當リ故ナク衆ニ先反チテ其艦船ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ有期流刑ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ輕禁獄ニ處ス

第八類 海軍刑法

第七十七條 司令官若クハ艦船ノ乘員其艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ付シ之ヲ損壞シタル者ハ重禁錮ニ處ス其怠慢ニ出タル時ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十八條 司令官其艦船擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ救護ノ方略ヲ盡サスシテ之ヲ没没シ若クハ損壞シタル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十九條 司令官敵ノ船舶ヲ拿捕ス可キ時ニ於テ故大ク其事ヲ爲ササル者ハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第八十條 司令官若クハ當直士官怠慢ニ因リ敵ヲシテ其艦船ニ乗入ラシメタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十一條 司令官船舶ヲ護衛スルノ命ヲ受ケ其船舶ヲ委棄シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス
- 二 軍中ニ在テハ重禁錮ニ處ス
- 三 其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十二條 前條ノ所爲其怠慢ニ出タル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ニ在テハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 二 軍中ニ在テハ三月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 三 其他ノ場合ニ在テハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十三條 將校其部下ノ兵徒黨犯罪ノ事アルニ當リ鎮定ノ方ヲ盡ササル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第八十四條 軍人祕密ヲ要スル圖書兵器彈藥ノ製法其他軍事ニ關スル機密ヲ漏洩シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十五條 司令官内外國ノ船舶擱岸坐礁其他危險ノ時救護ノ請求ヲ受ケ故ク之ヲ肯セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第三章 抗命

第八十六條 軍人命令ヲ下ス可キ權アル者ノ命令ニ抗シタル者若クハ服從セザル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ攔岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十七條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ攔岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ首魁ハ重禁錮ニ處ス其他ノ者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官

ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ首魁ハ輕禁錮ニ處ス其他ノ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第四章 暴行

第八十八條 軍人上官ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第八十九條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁錮ニ處ス其他ノ者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十條 軍人上官ノ公務ヲ行フニ當リ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第九十一條 軍人上官ニ對シ兵器若クハ兇器ヲ用ヒ暴行ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

戰場ニ於テ上官ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者亦同シ

第八類 海軍刑法

第九十二條 軍人守兵ニ對シ暴行ヲ爲シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ有期流刑ニ處ス

第九十三條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ重禁獄ニ處ス其他ノ者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ有期流刑ニ處ス首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ死刑ニ處ス

第九十四條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ暴行ヲ爲シタル者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者ハ重禁獄ニ處ス

第九十五條 軍人二人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者首魁ハ輕禁獄ニ處ス其他ノ者ハ三月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

其兵器若クハ兇器ヲ用ヒタル者首魁ハ有期流刑ニ處シ其他ノ者ハ重禁獄ニ處ス

首魁自ラ兵器若クハ兇器ヲ用ヒスト雖モ指示シテ之ヲ用ヒシメタル時ハ有期流刑ニ處ス

第九十六條 軍人多衆相集リ暴行ヲ爲シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九十七條 軍人多衆結合シテ相闘毆シタル者首魁ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ其他ノ者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第九十八條 軍人俘虜降人ヲ劫奪シ若クハ暴行脅迫ヲ以テ其逃走ヲ助ケタル者ハ重禁獄ニ處ス

第九十九條 軍人戰場ニ於テ創傷人ノ衣服財物ヲ褫奪シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ殺傷シタル者ハ死刑ニ處ス

第五章 侮辱

第八類 海軍刑法

第百條 軍人上官ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上官ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル時ハ一等ヲ加フ

第百一條 軍人文書圖畫ヲ流布シ若クハ多衆ヲ會シ演說ヲ爲シテ上官ヲ誹毀シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二條 軍人守兵ヲ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百三條 軍人戰場ニ於テ同等若クハ下等ノ者ノ公務ヲ行フニ當リ罵詈若クハ侮慢シタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六章 燒燬毀壞

第百四條 軍人火ヲ放テ艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰鬪ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第百五條 軍人火ヲ放テ露積シタル兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前若クハ軍中ニ在テハ死刑ニ處ス
- 二 其他ノ場合ニ在テハ重懲役ニ處ス

第百六條 軍人火藥其他激發ス可キ物品又ハ蒸氣罐ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物件ヲ毀壞シタル者ハ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百七條 軍人艦船屯營造船所造兵所武庫火藥庫其他戰鬪ノ用ニ供スル屋舎若クハ軍用ニ供スル物品ヲ貯藏シタル倉庫ヲ毀壞シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百八條 軍人兵器彈藥機械船具糧餉其他軍用ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百九條 軍人官給ノ物品ヲ棄毀シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第七章 擅權

第八類 海軍刑法

第一百十條 司令官講和ノ告示若クハ停戦ノ命令ヲ受ケタル後仍ホ戦闘ノ所爲ヲ止メサル者ハ死刑ニ處ス

第一百十一條 司令官命令ニ背キ若クハ權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サルノ理由ナク擅ニ艦船若クハ兵隊ヲ進退シタル者ハ死刑ニ處ス

第八章 違令

第一百十二條 司令官艦船若クハ兵隊ヲ率并故ナク其守地若クハ配置セラレタル地ヲ離去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中ニ在テハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ剝官ヲ附加ス

第一百十三條 將校艦船ノ直ニ在テ其直ヲ離レ若クハ守兵守所ヲ離レ其他軍人緊要ノ職務ニ服シ擅ニ其職務ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ死刑ニ處ス

二 軍中又ハ開岸坐礁其他艦船救護ノ爲メ緊要ノ方略ヲ爲ス時ニ在テハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

三 其他ノ場合ニ在テハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百十四條 將校艦船ノ直ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二 軍中又ハ航海中ニ在テハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百十五條 守兵守所ニ在テ睡眠若クハ酩酊シテ事ヲ省セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二 軍中ニ在テハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

三 其他ノ場合ニ在テハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八類 海軍刑法

第一百十六條 軍人艦船ノ擱岸坐礁其他危險ノ時ニ當リ司令官ノ命ヲ待タズ其艦船ヲ退去シ又ハ其ノ命ニ依リ艦船ヲ退去シタル後集合ノ場所ニ來ラス若クハ擅ニ其場所ヲ離去シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

軍人某地ニ滞在スヘキコトヲ命セラレ擅ニ其地ヲ離レ十日ヲ過キタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス(二十三年法律第十二號ヲ以テ追加)

第一百十七條 軍人守兵ヨリ告示スル禁令ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ニ在テハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 - 二 軍中ニ在テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス
 - 三 其他ノ場合ニ於テハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第一百十八條 軍人戰鬪ノ號報アル時故ナク其集合場ニ來會セサル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第一百十九條 軍人允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期限ニ後レ十日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百二十條 歸休兵及モ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者故ナク召集ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス(二十三年法律第十二號改正ニ依ル)

- 一 出帥ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
 - 二 其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第一百二十一條 徵兵募兵故ナク徵集ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス(二十三年法律第十二號改正ニ依ル)
- 一 出帥ノ時ニ在テ五日ヲ過キタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス
 - 二 其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過キタル者ハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第一百二十二條 司令官事變ニ因リ已ムコトヲ得ス暗號記號ヲ改メ又ハ配置セラレタル地若クハ其命セラレタル所ノ事ヲ變更シ直チニ之ヲ申報セサル者ハ二月

月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十三條 軍人命ヲ受ケス艦船内ニ商貨ヲ積載シタル者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス但破壊若クハ危險ニ罹リタル船舶ノ商貨ヲ保護スル爲メ移積シタル者ハ此限ニ在ラズ

第二百二十四條 守兵妄リニ銃礮ヲ發シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十五條 軍人禮礮號礮其他空礮ヲ發スル時ニ當リ彈丸銅鐵瓦石等ヲ裝填シテ發射シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

此條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十六條 軍人政治ニ關スル事項ヲ止書建白シ又ハ講談論說シ若クハ文書

ヲ以テ之ヲ廣告スル者ハ一月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百二十七條 軍人敵前軍中ニ在テ造テ造言飛語ヲ爲シタル者ハ一月以上一年

以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二百二十八條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシメタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮

ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ重禁錮ニ處ス

第二百二十九條 軍人俘虜降人ヲ逃走セシムル爲メ兵器其他ノ器具ヲ給與シ若ク

ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官

ヲ附加ス

看守護送者之ヲ犯シタル時ハ輕禁錮ニ處ス

第二百三十條 軍人前二條ニ記載シタル所ノ輕罪ヲ犯テシテ未タ遂ケサル者

ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百三十一條 軍人俘虜降人ヲ看守若クハ護送シ懈怠ニ因リ其逃走ヲ致シタル

者ハ十一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二百三十二條 軍人逃走ノ俘虜降人ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシ

メタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス但犯人ノ親

屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第九章 逃亡

第三百三十三條 軍人擅ニ艦船屯營本隊若クハ職役ヲ離レタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ逃亡ト爲シテ處斷ス

- 一 敵前ニ在テハ輕懲役ニ處ス（二十八年法律第十九號改正ニ依ル）
- 二 軍中ニ在テ三日ヲ過キタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス（同上）
- 三 其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス（同上）

第三百三十四條 軍人四人以上相黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 敵前ニ在テハ首魁ハ死刑ニ處シ其他ノ者ハ輕懲役ニ處ス（二十八年法律第十九號改正ニ依ル）

二 軍中ニ在テ三日ヲ過キタル者ハ首魁ハ輕懲役ニ處ス其他ノ者ハ六月以上

二年以下ノ重禁錮ニ處ス（同上）

三 其他ノ場合ニ在テ六日ヲ過キタル者ハ首魁ハ二年以上五年以下ノ重禁錮

ニ處シ其他ノ者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス（同上）

軍人故ナク發艦ノ期ニ後レタル者ハ其經過日數ヲ問ハズ逃亡ト爲シ前條ノ例

ニ從ヒ其四人以上相黨與シタル者ハ本條ノ例ニ從テ處斷ス（二十三年法律第

十二號ヲ以テ追加）

第三百三十五條 軍人敵ニ奔リタル者ハ死刑ニ處ス

第十章 詐偽

第三百三十六條 軍人敵地若クハ敵情ヲ探偵スルノ命ヲ受ケ詐偽ノ報告ヲ爲シタル者又ハ戰場ニ在テ命令ヲ詐リ傳ヘタル者ハ五月以上五年以下ノ重禁錮ニ處

ス

第三百三十七條 軍人糧食ノ支給ヲ掌リ健康ヲ害ス可キ食料飲料ヲ配付シタル者

ハ輕懲役ニ處シ因テ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第八類 海軍刑法

第三百二十八條 海軍醫官其職務ヲ以テ疾病傷痍及ヒ身體強弱ノ偽證ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其囑託ヲ爲シタル軍人亦同シ
第三百二十九條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シテ兵役ヲ免ルルコトヲ圖リタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

●陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スルトキ換刑處

分ノ件 (明治十六年十一月十日) 第三十七號 布告

陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スル時ハ直ニ輕禁錮拘留ニ換フルコトヲ得

●陸海軍刑法ノ適用ニ關スル件

(明治二十八年三月二十九日) 法律 第二十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸海軍刑法ノ適用ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍軍人海軍ノ勤務ニ服シ海軍軍人陸軍ノ勤務ニ服シ又ハ陸海軍軍人共ニ陸海軍ノ勤務ニ服スルトキ陸軍刑法ニ於テハ海軍軍人ヲ陸軍軍人ト同視

シ海軍刑法ニ於テハ陸軍軍人ヲ海軍軍人ト同視ス

第二條 前條ニ記載スル陸海軍軍人ノ所爲ニ對シ陸軍刑法海軍刑法俱ニ罰スヘキ正條アルトキハ陸軍軍人ハ陸軍刑法ニ依リ海軍軍人ハ海軍刑法ニ依テ處斷ス

第三條 此ノ法律ニ軍人ト稱スルハ陸軍刑法海軍刑法ニ於ケル軍人及之下同視スルモノヲ謂フ

●陸海軍治罪法

●陸軍治罪法

(明治二十一年十月十九日) 法律 第二十一號

朕陸軍治罪法ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍治罪法左ノ通改正シ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

第八類

陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スルトキ 二百十七
換刑處分ノ件 陸海軍刑法ノ適用ニ關スル件

陸軍治罪法

第一章 總則

第一條 軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス

陸軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ
海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條 長官ト稱スルハ軍團長師團長軍法會議ヲ管轄スル旅團長及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第一百四十四條第一百五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第一百條第一百一條第一百三十三條第三項第四百十六條第五百十六條第二百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 各師管ニハ軍法會議一箇若クハ數箇ヲ設ク

東京ニ高等軍法會議一箇ヲ設ク
軍中ニ於テハ軍團師團混成旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合圍ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第十條 軍法會議ハ判士長判士理事若クハ理事試補及ヒ錄事ヲ以テ構成ス

第八類 陸軍治罪法

第十一條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ依リ他ノ軍法會議ニ於テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

| 第一表 | | 第二表 | |
|------------|--------------------|------------|--------------------|
| 判士長 | 判士 | 判士長 | 判士 |
| 佐官一名 | 尉官四名 | 尉官一名 | 尉官四名 |
| 陸海軍下士以下ノ軍人 | 陸海軍下士以下ノ軍人 | 陸海軍下士以下ノ軍人 | 陸海軍下士以下ノ軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍中尉及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍中尉及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍大尉及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍大尉及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍中佐及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍中佐及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍大佐及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍大佐及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍大將 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍大將 |

| 第二表 | | 第三表 | |
|------------|--------------------|------------|--------------------|
| 判士長 | 判士 | 判士長 | 判士 |
| 佐官一名 | 尉官四名 | 尉官一名 | 尉官四名 |
| 陸海軍下士以下ノ軍人 | 陸海軍下士以下ノ軍人 | 陸海軍下士以下ノ軍人 | 陸海軍下士以下ノ軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍中尉及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍中尉及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍大尉及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍大尉及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍中佐及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍中佐及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍大佐及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍大佐及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大尉若クハ中尉 | 陸軍大將 | 大尉若クハ中尉 | 陸軍大將 |

| | | | | | | | |
|---|---|----|---|---|---|----|--------------|
| 佐 | 官 | 一名 | 中 | 大 | 尉 | 二名 | 陸軍中尉及七同等ノ陸海軍 |
| 大 | 佐 | 一名 | 中 | 大 | 尉 | 二名 | 陸軍大尉及七同等ノ陸海軍 |
| 大 | 佐 | 一名 | 少 | 中 | 佐 | 二名 | 陸軍少佐及七同等ノ陸海軍 |
| 少 | 將 | 一名 | 中 | 大 | 佐 | 二名 | 陸軍中佐及七同等ノ陸海軍 |
| 中 | 將 | 一名 | 大 | 少 | 將 | 二名 | 陸軍大佐及七同等ノ陸海軍 |

第十二條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキハ高等軍法會議ニ於テハ陸軍大臣之ヲ命シ師管旅管ノ軍法會議ニ於テハ師團長其部下中ヨリ之ヲ命シ師管旅管ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ師團

長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ命ス

第十三條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官其部下ノ將校中ヨリ判士長判士ヲ命ス

第十四條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官專任判士ヲ命スルコトヲ得又

部下ノ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

合圍ノ地ニ於テハ長官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ理事ニ充テ判任官ヲ以テ錄事ニ充ルコトヲ得

第十五條 判士長判士理事左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコトヲ得ス

一 被告人被害者及其配偶者ノ親屬
 二 被告人被害者ノ後見人
 三 若シ發人被害者及ヒ證據ヲ陳述シタル者

第八類 陸軍治罪法

第十七條 第十二條第三項ノ場合ニ於テ陸軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスシテ被告ヲ他ノ師管旅管ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第十八條 師管旅管ノ軍法會議ハ其師管旅管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲シ所屬

軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第十九條 軍人管轄地外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得

第二十條 高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス但他ノ軍法會議ニ於テ爲シタル闕席裁判ニ對スル再審ハ此限ニ在ラス

第二十一條 軍團師團混成旅團ノ軍法會議ハ其團所屬佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十二條 合圍ノ地ノ軍法會議ハ總テ其地所在佐官以下ノ軍人ノ犯罪ヲ審判ス

第二十三條 臨戰若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ陸軍刑法ヲ以テ論スヘキ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令定ムル所ニ依ル

第二十四條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラズ其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第二十五條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十六條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官在役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官在役中ノ犯罪ト雖モ免官免役ノ後告訴告發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ附ス

第八類 陸軍治罪法

第二十七條 軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニスルトキハ先ニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人ト共犯若クハ附帶犯ニ係ルトキ亦同シ

第二十八條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帶シ若クハ重罪輕罪トシテ審判ニ著手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十九條 軍中若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルトキハ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 陸軍檢察

第三十條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ證據ヲ收集ス

第三十一條 陸軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

一 憲兵ノ將校下士

二 師團副官

三 旅團副官

四 警備隊司令官

第三十二條 各所管ノ長官團隊ノ長タル將校大隊區司令官監獄長衛兵司令ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知りタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ其處分ヲ委ヌ可シ
理事職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知りタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲ス可シ

第三十三條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令又ハ豫審判事檢事司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得
第三十四條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知りタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發スルコトヲ得

第八類 陸軍治罪法

第三十五條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十三條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ告發ス可シ

第三十六條 陸軍檢察官憲兵卒司法警察官巡查ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第三十七條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

其逮捕シタル者ハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡查ニ之ヲ交付ス可シ

第三十八條 憲兵巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ之ヲ引致ス可シ

第三十九條 陸軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十二條 ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ陸軍檢察官ニ委スルコトヲ得

第四十條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其檢證ノ處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十一條 陸軍檢察官及ヒ第三十二條ニ記載シタル諸官軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十二條 司法警察官現行犯ノ陸軍ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作り陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢察司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付スヘシ

第四十四條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 陸軍檢察官及第三十二條ニ記載シタル諸官檢察ノ處分ヲ爲シタ

ルトキハ被告事件ニ證據物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲スコシ

一 重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申シ違警罪ト認ムルトキハ其事件
ヲ管理ス可キ官司ニ交付スコシ

二 裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所在ノ
地ノ陸軍檢察官ニ送致シ海軍軍人ナルトキハ海軍軍法會議ノ主理ニ送致
シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致スコシ但軍人ト共
犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申スコシ

三 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ナルトキハ陸軍大臣ニ具申スコシ

第五章 審問

第四十六條 陸軍大臣又ハ長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲
スコシ

一 其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命

令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ヲ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルモノ
及ヒ違警罪ノ正式裁判ニ附スコキモノハ直ニ判決ノ命令ヲ下スコシ

二 審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ理事ニ下付
スコシ

第四十七條 理事審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發スコシ

被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問スコシ

罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第四十八條 理事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀
ヲ發スルコトヲ得

第四十九條 理事ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪
以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐
レアルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行
スルノ恐レアルトキハ直ニ勾引狀ヲ發スコシ

第五十條 勾引狀ハ管轄地外ト雖モ之ヲ執行スルコトヲ得

第五十一條 理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケ可キ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキ

ハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又陸軍檢察官理事司法警察官ニ召喚狀ヲ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十二條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ四

十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十三條 理事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故

アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ理事陸軍檢察官若クハ

豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十四條 理事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ陸軍檢察官及

ヒ各控訴院ノ檢察長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第五十五條 理事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認メタルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁ヲ要セサルモノト認メタルトキハ收禁ヲ取消ス可シ

第五十六條 勾引狀收禁狀ハ憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム可シ但憲兵ヲ置カサル地ニ於テハ衛兵ヲシテ之ヲ執行セシム可シ

勾引狀ハ受ケ可キ被告人營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

被告人海軍艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

憲兵卒衛兵勾引狀ヲ執行スルニ當リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタルト認メタルトキハ其地ノ戸長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラス若クハ之ヲ得

第八類 陸軍治罪法

ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 理事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得

若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ陸軍檢察官若クハ理事豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十八條 理事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條 理事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナルトキハ理事其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ
證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ理事其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニ在ルトキハ第五十七條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ノ爲メ其陳述

ヲ聽クコトヲ得

一 被害者

二 被害者及ヒ被告人ノ親屬

三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者

四 被害者及ヒ被告人ノ雇人

五 現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ會テ訴ヲ受ケ證據充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者

六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ附セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ附セラレタル者

第八類 陸軍治罪法

- 七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者
- 八 十六歳未満ノ者
- 九 智覺精神ノ不充分ナル者
- 十 瘖啞者

第六十一條 理事被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ

理事ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ陳述者ヲシテ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ

急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 理事犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要ス

ルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但シ第六十條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十三條 理事ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲スコキコトヲ宣誓セシム可シ

理事ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ

宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十四條 理事ハ證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル第八類 陸軍治罪法

者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セスシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス可シ若シ五日內ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ

前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第六十五條 理事ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル祕密ノ事件ニ因リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第六十六條 理事ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキ又ハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十

圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第六十七條 理事ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十四條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第六十八條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ納完セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ理事之ヲ爲ス可シ

第六十九條 理事ハ被告事件ニ關スル調書説明ノ爲メ其調書ヲ作りタル陸軍檢察官司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十條 理事審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十一條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證據物件ヲ添ヘ其共犯事
件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第七十二條 理事ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但營内居住
ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十三條 理事審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判
決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

- 一 審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作リ訴訟書類ト
共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ
- 二 裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ
添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケ
タル事件ニ於テモ亦同シ

第七十四條 陸軍大臣又ハ長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件
有罪ナリト認メタルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第七十五條 軍法會議ハ判士長判士理事錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第七十六條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サ
シム可シ

理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求
ムルコトヲ得

第七十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令
狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得
法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理
事ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證據文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大
臣又ハ長官ニ具申ス可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決
ヲ爲ス可シ

第八類 陸軍治罪法

第七十八條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人鑑定人通事ヲ要シ若クハ調書說明ノ爲メ官吏ヲ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第七十九條 證人鑑定人通事事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應セサルトキハ理事ノ意見ヲ聽キ軍法會議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科スヘシ
一 違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二 輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第八十條 判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ其訊問ヲ爲サシムヘシ

理事其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條 判決ノ爲メ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ理事ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帯犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帯犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十二條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キコトナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若クハ其逃走ニ由リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ關席裁判ヲ爲スコトヲ得

第八十四條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中關席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 理事ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明ス可シ
第八類 陸軍治罪法 二百四十三

會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得

其判決法律ニ違ヒ再議スヘキ理由アリト認ムルトキハ其判決ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申ス可シ

第八十六條 判決書ハ理事左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ具申スヘシ

一 判決ノ理由

二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ證據備ラサルコト

四 免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ノ判決書ニハ其旨

六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齢住所判決ノ年月日

第八十七條 左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ長官ヨリ陸軍大臣ニ具申シ

其他ハ長官ニ於テ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一 死刑ニ該リタルトキ

二 佐官及ヒ其同等軍人重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三 尉官及ヒ其同等軍人重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第八十八條 陸軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官

及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏スヘシ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ

他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ

下サシム可シ

第八十九條 軍中若クハ臨戰合圍ノ地ニ於テハ長官第八十七條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモノハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申スヘシ

第九十一條 陸軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシムヘシ

第九十二條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士理事錄事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲スコシ

開席裁判ノ宣告ハ被告人開席ノママ之ヲ爲スコシ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セス若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキ亦同シ

第九十三條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ宣告アリタル者禁錮以上ノ刑ニ該ルトキハ理事逮捕狀ヲ發スコ

シ

逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ依ル

若シ其所在分明ナラサルトキハ陸軍檢察官及ヒ控訴院ノ檢事長二人相書ヲ送り逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第九十四條 被告人開席ノママ宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達スヘシ

第七章 再審

第九十五條 陸軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲スコキニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第九十六條 軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ルルモノアルトキハ理事及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

第八類 陸軍治罪法

- 一 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者
犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ
 - 二 同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ
 - 三 公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ
 - 四 既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ
 - 五 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ
 - 六 公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ
- 第九十七條 陸軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ
- 長官其事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ
- 第九十八條 闕席裁判ニテ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得但裁判宣告アリタルコトヲ知リ若クハ捕

ニ就キ若クハ自首シタルトキハ重罪ノ刑ニ於テハ十日禁錮ノ刑ニ於テハ三日
内ニ非レハ申訴ヲ爲スコトヲ得ス

罰金以下ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其住所ニ宣告書ヲ送達アリタル日ヨリ三日内ニ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲スコシ高等軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ナルトキハ陸軍大臣ニ其申訴ヲ爲スコシ

理事其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添フ可シ

被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ理事ニ出シ理事意見書ヲ添フ可シ

長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ陸軍大臣ニ具申スコシ闕席裁判ニ對スル申訴ナルトキハ直ニ再審ヲ爲サシム可シ

第八類 陸軍治罪法

陸軍大臣再審ノ申訴ヲ受ケ若クハ長官ヨリ再審ノ具申ヲ受ケタルトキハ其再審ヲ爲サシム可シ

第百條 陸軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行ヲ停止ス可シ

第百一條 再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏シテ裁可ヲ請フ可シ

第八章 復權

第百二條 復權ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヨリ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

其復權願書ハ二通ヲ作り本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添ヘ郡區長ニ出シ郡區長願人ノ品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意見書ヲ添ヘ願人住居ノ地ヲ管轄スル長官ニ出ス可シ

一 裁判宣告書ノ謄本

二 主刑ノ滿期若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假リニ監視ヲ免セラレタルコトアルトキハ其證書

四 賠償ノ義務ヲ免カレタル證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第百三條 長官前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ之ヲ理事ニ付シ理事更ニ必要ノ調査ヲ爲シ意見書ヲ作り一切ノ書類ヲ添ヘ長官ニ出シ長官ハ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第百四條 陸軍大臣復權ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏スヘシ

第百五條 復權ノ願裁可アリタルトキハ陸軍大臣裁可狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ

理事ヲシテ地方長官ヲ經テ本人ニ傳達セシム可シ
理事ハ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テ之ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

第八類 陸軍治罪法

第百六條 復権ノ願棄却セラレタルトキハ陸軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面ヲ附シ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ前條第二項ノ處分ヲ爲サシム可シ復権ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非ンハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 特赦

第百七條 特赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ理事若クハ司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ陸軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

理事其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル陸軍大臣又ハ長官ニ其書面ヲ出ス可シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ理事ノ意見書ヲ徵シ自己ノ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ具申ス可シ

第百八條 陸軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

第百九條 陸軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコトヲ得

第百十條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外ハ刑ノ執行ヲ停止セス

第百十一條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ陸軍大臣特赦狀ヲ長官ニ下付シ長官ハ理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ高等軍法會議ノ理事ノ申請ニ係ル

モノハ其理事ヲシテ之ヲ本人ニ傳達セシム可シ

理事ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

●海軍治罪法

(明治二十二年二月十二日法律第五號)

朕海軍治罪法ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍治罪法左ノ通改正シ明治二十二年三月十五日ヨリ施行ス

海軍治罪法

第八類 海軍治罪法

第一章 總則

第一條 犯人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲ス(二十二年法律第二十六號改正ニ依ル)

海軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其裁判宣告ヲ爲ストキハ軍人ニ限り之ヲ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ海軍刑法第五十條第五十一條ニ記載シタル者ヲ謂フ陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第四條 長官ト稱スルハ海軍大臣及ヒ司令官ヲ謂フ司令官ト稱スルハ鎮守府司令長官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 親屬ト稱スルハ普通刑法第一百四十四條第一百五條ニ記載シタル者ヲ謂フ

第六條 普通治罪法第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十八條第三十九條第一百條第一百一條第一百三十三條第三項第一百四十六條第一百五十六條第二百六十一條第一項ハ此治罪法ニ於テ之ヲ適用ス

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第八條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官審判ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二章 軍法會議ノ構成

第九條 軍法會議ヲ設ケルコト左ノ如シ

東京軍法會議
鎮守府軍法會議
艦隊軍法會議

高等軍法會議
合圍地軍法會議

第八類 海軍治罪法
二百五十五

東京軍法會議及ヒ各鎮守府軍法會議ハ常設ト爲シ艦隊軍法會議ハ臨時各艦隊ニ之ヲ設ケ高等軍法會議ハ臨時東京ニ之ヲ設ケ合圍地軍法會議ハ臨戰合圍ノ戒嚴間之ヲ設ケ

第十條 軍法會議ハ判士長判士主理若クハ主理試補及ヒ錄事ヲ以テ構成ス

第十二條 判士長判士ハ高等軍法會議ニ於テハ第一表ニ據リ他ノ軍法會議ニ於

テハ第二表ニ據リ將校ヲ以テ之ニ充ツ

臨戰合圍ノ地ニ於テハ判士二名ヲ減スルコトヲ得

第一表

| | | | | |
|-------|----|---|----|------------|
| 判士長 | 判 | 士 | 被告 | 人 |
| 佐官 一名 | 尉官 | 四 | 名 | 陸海軍下士以下ノ軍人 |
| 佐官 一名 | 大尉 | 二 | 名 | 海軍少尉及ヒ同等ノ陸 |
| | 少尉 | 二 | 名 | 海軍人並ニ准士官 |

第二表

| | | | | |
|-----------|-----------|---------|----|----------------------|
| 判士長 | 判 | 士 | 被告 | 人 |
| 佐官 一名 | 大尉(奏任官四等) | 二名若クハ一名 | 名 | 海軍大尉(奏任官五等)及同等ノ陸海軍人 |
| 大佐 一名 | 少佐 | 二名若クハ一名 | 名 | 海軍大尉(奏任官四等)及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大佐(奏任官一等) | 大佐(奏任官二等) | 二名若クハ一名 | 名 | 海軍大尉(奏任官二等)及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 少將 一名 | 大佐(奏任官一等) | 二名若クハ一名 | 名 | 海軍大尉(奏任官一等)及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 中將 一名 | 少將 | 二名若クハ一名 | 名 | 海軍大尉(奏任官一等)及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 中將 一名 | 中將 | 二名若クハ一名 | 名 | 海軍少將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大將 一名 | 中將 | 二名若クハ一名 | 名 | 海軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大將 一名 | 大將 | 三名若クハ二名 | 名 | 海軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| | 中將 | 一名若クハ二名 | 名 | 海軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| | 大將 | 三名若クハ二名 | 名 | 海軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| | 中將 | 二名若クハ一名 | 名 | 海軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| | 少將 | 二名若クハ一名 | 名 | 海軍中將及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| | 大將 | 一名 | 名 | 陸海軍大將 |

| | | | | | |
|-----------|----|-----------|---|---|--------------------|
| 佐官 | 一名 | 尉官 | 四 | 名 | 陸海軍下士以下ノ軍人 |
| 佐官 | 一名 | 大尉 | 二 | 名 | 海軍少尉及ヒ同等ノ陸海軍人並ニ准士官 |
| 佐官 | 一名 | 大尉(奏任官四等) | 二 | 名 | 若クハ一名海軍大尉(奏任官五等) |
| | | 大尉(同) | 五 | 名 | 若クハ三名及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大佐 | 一名 | 少佐 | 二 | 名 | 若クハ一名海軍大尉(奏任官四等) |
| | | 大尉(奏任官四等) | 二 | 名 | 若クハ三名及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 大佐(奏任官一等) | 一名 | 少佐 | 二 | 名 | 若クハ一名海軍少佐及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| | | 大佐(奏任官二等) | 二 | 名 | 若クハ一名海軍人 |
| 少將 | 一名 | 大佐(奏任官一等) | 二 | 名 | 若クハ一名海軍大佐(奏任官二等) |
| | | 大佐(同) | 二 | 名 | 若クハ一名及ヒ同等ノ陸海軍人 |
| 中將 | 一名 | 少將 | 二 | 名 | 若クハ一名海軍大佐(奏任官一等) |
| | | 大佐(奏任官一等) | 二 | 名 | 若クハ一名及ヒ同等ノ陸海軍人 |

第十二條 軍人ニ非サル者ヲ軍法會議ニ於テ審判ス可キトキハ其身分ニ依リ前條ノ各表ニ照シテ判士長判士ヲ定ム

第十三條 外國又ハ戰地ニ數隻ノ艦船ヲ差遣スルトキハ海軍大臣其先任艦長ニ軍法會議ヲ開クノ權ヲ附與スルコトヲ得此場合ニ於テハ其權限艦隊司令官ニ

同シ

第十四條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ストキハ海軍大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲シ尉官ヲ以テ判士ト爲ストキ東京ニ於テハ海軍大臣之ヲ命シ鎮守府若クハ艦隊ニ於テハ司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス
艦隊ニ於テ判士ト爲ル可キ將校缺乏スルトキハ准將校ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

鎮守府若クハ艦隊ニ於テ部下ニ非サル者ヲ以テ判士長判士ト爲スヲ要スルトキハ司令官ノ上申ニ依リ海軍大臣之ヲ命ス

第十五條 艦隊軍法會議ニ於テハ司令官部下ノ將校准將校ヲシテ主理ノ職務ヲ行ハシメ士官若クハ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十六條 合圍地軍法會議ノ判士長判士ハ司令官其部下中ヨリ之ヲ命ス

第十七條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官專任判士ヲ命スルコトヲ得又部下ノ下

第八類 海軍治罪法

士ヲシテ録事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得
合圍ノ地ニ於テハ司令官其地所在ノ高等官ヲ以テ判士若クハ主理ニ充テ判任
官ヲ以テ録事ニ充ツルコトヲ得

第十八條 判士長判士主理左ニ記載シタル者ナルトキハ其審判ニ從事スルコト
ヲ得ス

- 一 被告人被害者及ヒ其配偶者ノ親屬
- 二 被告人被害者ノ後見人

三 告發人被害者及證據ヲ陳述シタル者

第十九條 原裁判ニ從事シタル判士長判士主理ハ再議及ヒ再審ノ裁判ニ列スル

コトヲ得ス
海軍檢察ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其事件ノ審判ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條ノ場合ニ於テ審問ヲ爲シタル者ニハ其事件ノ判士長判士ヲ命ズルコ
トヲ得ス

第二十條 第十四條第四項ノ場合ニ於テ海軍大臣ハ判士長判士ヲ命セスシテ被
告人ヲ他ノ常設ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 軍法會議ノ權限

第二十一條 東京軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

- 一 司令官ノ部下ニ屬セサル佐官以下ノ軍人其他海軍ノ用ニ供スル船舶ノ乘
員ニシテ罪ヲ犯シタル者(二十二年法律第二十六號改正ニ依ル)
- 二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第二十二條 鎮守府軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

- 一 鎮守府司令長官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其他鎮守府ノ用ニ供スル
船舶ノ乘員ニシテ罪ヲ犯シタル者(同上)
- 二 第二十三條第二項第三項ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第二十三條 艦隊軍法會議ハ艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官ノ部下ニ
屬スル佐官以下ノ軍人其他從軍諸員及ヒ艦隊ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ

第八類 海軍治罪法

罪ヲ犯シタル者ヲ審判ス(同上)

艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊司令官ハ時機ニ依リ前項ニ記載シタル者ノ審判ヲ常設ノ軍法會議ニ委スルコトヲ得

艦隊ニ屬スル艦船長ハ事件急速ヲ要スル場合ニ於テハ直チニ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其事由ヲ速ニ其艦隊司令長官艦隊司令官若クハ分遣艦隊司令官ニ報告ス可シ

第二十四條 艦隊若クハ數隻ノ艦船外國ニ出發ノ後其司令官若クハ先任艦長ノ部下ニ屬スル者内國ニ在テ犯罪發覺シタルトキハ本人所在ノ地最近ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス可シ

第二十五條 佐官以下ノ軍人軍法會議所在ノ軍区内ニ於テ罪ヲ犯シタルトキハ管轄外ノ者ト雖モ其地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得(同上)

第二十六條 高等軍法會議ハ將官若クハ其同等軍人ノ犯シタル罪ヲ審判シ及ヒ再審ノ審判ヲ爲ス(同上)

第二十七條 合圍地軍法會議ハ第二十一條第二十二條第二十三條ニ記載シタル者ノ臨戰合圍ノ地ニ在リテ犯シタル罪ヲ審判ス(同上)

第二十八條 合圍地軍法會議ニ於テハ從軍常人ノ犯罪ヲ審判シ又何人ト雖モ海軍刑法ヲ以テ論ス可キ罪ヲ犯シタルトキハ其審判ヲ爲ス可シ

合圍ノ地ノ特別裁判權ハ戒嚴令定ムル所ニ依ル

第二十九條 臨戰合圍ノ地ニ於テ專任判士ヲ以テ構成シタル軍法會議ハ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外被告人ノ身分ニ拘ハラズ其犯罪ヲ審判スルコトヲ得

第三十條 俘虜降人ノ犯罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十一條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官現役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス在官現役中ノ犯罪ト雖モ免官若クハ現役ヲ去リタル後告訴發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ付ス

第三十二條 軍人二人以上共ニ罪ヲ犯シ若クハ附帶犯ニシテ各其管轄ヲ異ニス

第八類 海軍治罪法

ルトキハ先キニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル者ト共犯若クハ附帯犯ニ係ルトキハ高等軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス陸軍軍人ト共犯若クハ附帯犯ニ係ルトキモ亦同シ(二十二年法律第二十六號改正ニ依ル)

第三十三條 數罪俱ニ發シテ各其管轄ヲ異ニシ又ハ審判中裁判管轄變更シタルトキハ既ニ審判ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十四條 重罪輕罪ト俱ニ發シ若クハ重罪輕罪ニ附帯シ若クハ重罪輕罪ト認メ審判ニ著手シタル違警罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第三十五條 合圍地軍法會議ヲ廢スルトキ其軍法會議ニ於テ管轄シタル被告事件ハ通常ノ權限ニ照シ管轄軍法會議ヲ以テ其管轄ト爲ス

第四章 海軍檢察

第三十六條 海軍檢察ハ海軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ收集ス

第三十七條 海軍檢察官ハ左ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツ

一 艦船營副長分隊長

二 生徒隊司令官生徒分隊長及ヒ學校監事

三 衛兵司令

四 軍法會議ノ主理及ヒ主理試補

第三十八條 各廳長及ヒ艦船營長ハ各其管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ海軍檢察官ニ其處分ヲ委ヌ可シ

第三十九條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢察司法警察官ニ之ヲ告訴スルコトヲ得

第四十條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ前條ニ記載シタル諸官ニ告發スルコトヲ得

第四十一條 海軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人及ヒ海軍ノ用ニ供スル船舶乘員ノ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ第三十九條ニ記載シタル諸官ニ告發ス

第八類 海軍治罪法

可シ

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴發テ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十三條 海軍檢察官憲兵ノ將校下士卒又ハ司法警察官巡查ハ軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ直ニ之ヲ逮捕ス可シ

第四十四條 何人ヲ論セス軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルトキハ直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得

其逮捕シタル者ハ海軍檢察官又ハ司法警察官若クハ憲兵卒巡查ニ之ヲ交付ス可シ

第四十五條 憲兵卒巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ之ヲ引致ス可シ

第四十六條 海軍檢察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ

訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ各廳長艦船營長現行犯ノ軍人ヲ逮捕シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ海軍檢察官ニ委シ若クハ憲兵ノ將校下士ニ囑託スルコトヲ得

第四十七條 海軍檢察官各廳長艦船營長現行犯人ヲ逮捕シ若クハ其檢證處分ヲ爲ストキハ公力ヲ用フルコトヲ得

第四十八條 海軍檢察官及ヒ各廳長艦船營長軍人ト共犯ノ常人アルコトヲ知リタルトキハ前數條ニ照シ其處分ヲ爲ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

第五十條 告訴人告發人ハ其願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコトヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 海軍檢察官各廳長艦船營長檢察ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告事件

- ニ 證據物件ヲ添ヘ左ノ手續ヲ爲ス可シ
- 一 重罪輕罪ト認ムルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ但艦隊ニ於テハ被告人所屬ノ艦船長ヲ經由ス可シ
- 二 違警罪ト認ムルトキハ之ヲ管轄ス可キ官司ニ交付ス可シ
- 三 裁判管轄ニ非サル者軍人ナルトキハ之ヲ其事件ヲ管理ス可キ長官部下ノ海軍檢察官ニ送致シ陸軍軍人ナルトキハ其事件ヲ管轄ス可キ軍法會議所
在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致ス可シ但軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ長官ニ具申ス可シ
- 四 高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノナルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

第五章 審問

第五十二條 長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

- 一 其犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ル可キモノニシテ審問ヲ要セスト認ムルトキ

ハ直チニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

- 二 審問若クハ審判若クハ判決ノ命令ヲ下シタルトキハ其事件ヲ主理ニ下付ス可シ

第五十三條 主理審問ヲ爲ストキハ先ツ召喚狀ヲ發スヘシ

被告人出廷シタルトキハ即日之ヲ訊問ス可シ

罰金以下ノ刑ニ該ル可キ被告人ハ代人ヲ出廷セシムルコトヲ得

第五十四條 主理ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサルトキハ勾引狀

ヲ發スルコトヲ得

第五十五條 主理ハ重罪ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ナルトキ又ハ輕罪

以下ノ刑ニ該ル可キモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐

アルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其目的ヲ遂ケ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其手段ヲ實行ス

ルノ恐アルトキハ直チニ勾引狀ヲ發ス可シ

第五十六條 主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニアルトキ

第八類 海軍治罪法

ハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ヲ囑託スルコトヲ得又其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ召喚狀ノ送達勾引狀ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得

第五十七條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ四十八時ヲ經過シ仍ホ留置ヲ要スルトキハ收禁狀ヲ發ス可シ

第五十八條 主理ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ訊問ノ條件ヲ明示シテ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五十九條 主理ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校及ヒ各控訴院ノ檢事長二人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 主理ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト認ムルトキハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得 收禁狀ヲ發シタル後被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス又ハ收禁狀ヲ要セサルモノト認ムルトキハ收禁狀ヲ取消ス可シ

第六十一條 勾引狀收禁狀ハ衛兵若クハ軍屬ヲシテ之ヲ執行セシム可シ 勾引狀ヲ受ケ可キ被告人艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長隊伍ノ長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ

陸軍營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ隊長ニ依リ其執行ヲ求ム可シ 勾引狀ヲ執行スルニ方リ被告人其家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認ムルトキハ其地ノ戸長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索シ其調書ヲ作り立會人亦共ニ署名捺印ス可シ若シ立會ヲ求ムルニ暇アラス若クハ之ヲ得ル能ハサルトキハ其立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 主理ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得

其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十三條 主理ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告事件ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得其場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ前條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十四條 主理ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得 證人皇族若クハ勅任官ナルトキ主理其所在ニ就キ陳述ヲ聽ク可シ 證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタルトキハ主理其所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得 證人遠隔ノ地ニアルトキハ第六十二條第二項ノ例ニ依リ本條ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得

第六十五條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲スコトヲ得ス但事實參考ヲ爲メ其陳述ヲ聽クコトヲ得

- 一 被害者
- 二 被害者及ヒ被告人ノ親屬
- 三 被害者及ヒ被告人ノ後見人又ハ其後見ヲ受クル者
- 四 被害者及ヒ被告人ノ雇人
- 五 現ニ陳述ヲ爲ス可キ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證據充分ナラサルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者
- 六 重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ付セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議ハ公議又ハ普通裁判所ノ判決ニ付セラレタル者
- 七 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者
- 八 十六歳未満ノ者

第八類 海軍治罪法

九 知覺精神ノ不充分ナル者

十 嗜啞者

第六十六條 主理被告人證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人證人事實參考人ニ讀示ス可シ
主理ハ其讀示シタル所其陳述ニ違ハサルヤ否ヤヲ問ヒ陳述者ヲシテ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ記セシム可シ

急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 主理犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スルトキハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ但第六十五條ニ記載シタル者ハ鑑定人ト爲スコトヲ得ス若シ急遽ノ

際正當ノ鑑定人ヲ得ルコト能ハサルトキハ參考ノ爲メ之ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

鑑定ヲ爲シタル者ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ若シ結果ヲ得ルコト能ハサルトキハ其推測スル所ヲ記シ之ニ署名捺印ス可シ

第六十八條 主理ハ證人通事鑑定人ヲシテ正實ニ陳述通譯鑑定ヲ爲スコトヲ得

主理ハ證人通事鑑定人ニ宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ錄事ヲシテ其旨ヲ附記セシム可シ

宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置ク可シ

第六十九條 主理ハ證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命シタル者疾病其他正當ノ事故ヲ證明セスシテ呼出ニ應セサルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ若シ再度ノ呼出ニ應セサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科ス

第八類 海軍治罪法

可シ若シ五日内ニ正當ノ事故アリテ出廷スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消ス可シ

前項ノ場合ニ於テ證人事實參考人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第七十條 主理ハ證人鑑定人宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ陳述鑑定ヲ肯セサルトキハ證人ハ普通刑法第八十條ニ依リ鑑定人ハ同法第七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

證人トシテ呼出シタル醫師藥商穩婆代言人辯護人公證人神官僧侶其身分職業ニ關スル祕密ノ事件ニ依リ委託ヲ受ケタル事ニ關シ陳述ヲ肯セサルトキハ前項ノ例ニ在ラス

第七十一條 主理ハ通事宣誓ヲ肯セス若クハ宣誓シテ通譯ヲ肯セサルトキハ事實參考ノ爲メ陳述鑑定ヲ命セラレタル者之ヲ肯セサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第七十二條 主理ハ證人事實參考人ノ陳述ヲ確實ナラシムル爲メ犯所若クハ其

他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

證人事實參考人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第六十九條ニ照シ罰金ヲ科ス可シ

第七十三條 證人通事鑑定人事實參考人及ヒ參考ノ爲メ鑑定ヲ命セラレタル者ニ科シタル罰金ヲ完納セシメ若クハ罰金ヲ禁錮ニ換フルノ處分ハ普通刑法第二十七條ニ依リ主理之ヲ爲ス可シ

第七十四條 主理ハ被告事件ニ關スル調書説明ノ爲メ其調書ヲ作りタル海軍檢察官又ハ司法警察官其他ノ官吏ヲ呼出スコトヲ得

第七十五條 主理審問ニ於テ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直チニ之ヲ審問ス可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申ス可シ

第七十六條 軍人ト共犯セシ常人ハ審問ヲ終リタル後證憑物件ヲ添ヘ其共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致ス可シ

第八類 海軍治罪法

第七十七條 主理ハ審問中被告人ヲ其親屬故舊ニ責付スルコトヲ得但艦船營内居住ノ者ハ責付スルノ限ニ在ラス

第七十八條 主理審判若クハ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ノ審問ヲ終リ若クハ判決ノ命令ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一 審判若クハ判決ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作り訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ定メ判士長判士ニ通報ス可シ

二 裁判管轄ニ非ス若クハ免訴ト爲ス可キ事件ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テモ亦同シ

第七十九條 長官審問ノ命令ヲ下シタル事件ノ具申ヲ受ケ其事件有罪ナリト認ムルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下ス可シ

第六章 判決

第八十條 軍法會議ハ判士長判士主理錄事列席シテ之ヲ開ク可シ

第八十一條 判士長ハ被告人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊問ヲ爲サシム可シ

主理其審問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求ムルコトヲ得

第八十二條 判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマテノ間必要ト認ムルトキハ令收ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ判士長檢證ノ處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其處分ヲ爲サシメ調書及ヒ證憑文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ズ可シ但其犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直ニ判決ヲ爲ス可シ

第八十三條 判士長ハ法廷其他ノ場合ニ於テ證人通事鑑定人ヲ要シ若クハ調書說明ノ爲メ官吏ヲ呼出ヲ要スルトキハ第五章ノ例ニ依ル

第八類 海軍治罪法

第八十四條 證人通事鑑定人事實參考人及七參考以爲鑑定ヲ命セラレタル者
帶疾病其他正當ノ事故ナクシテ呼出ニ應ゼサルトキハ主理ノ意見ヲ聽キ軍法會
議ニ於テ直ニ左ノ罰金科料ヲ科ス可シ

一 違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料
二 輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上三十圓以下ノ罰金

第八十五條 判士長ハ證人事實參考人ヲ訊問シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其訊
問ヲ爲サシム可シ
主理其訊問ヲ要スルトキハ判士長ニ請フテ自ラ之ヲ訊問シ若クハ其訊問ヲ求

第八十六條 判決ノ爲メ更ニ檢證處分ヲ要スルコトアルトキハ判士長其處分ヲ
爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルトキハ直ニ其判決ヲ爲シ若クハ主理ニ移
シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル

トキハ判士長ヨリ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第八十七條 被告人ノ訊問終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス
可キコトヲキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシメ其判決ヲ

爲ス可シ

第八十八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セス若
クハ其逃走ニ因リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サルトキ及ヒ罰金以下ノ刑ニ該

ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セサルトキハ闕席裁判ヲ爲スコ
トヲ得

第八十九條 數人共犯ノ判決ヲ爲ストキハ被告人中闕席シタル者アリト雖モ出
廷シタル者ニ對シ其判決ヲ爲スコトヲ得

第九十條 主理ハ會議席ニ列シ意見書ノ趣旨ヲ説明スルニシテ其
會議ノ判決其意見ト合ハサルトキハ其旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコ

トヲ得

第八類 海軍治罪法

其判決法律ニ違ヒ再議ス可キ理由アリト認ムルトキハ之ヲ其判決ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

第九十一條 判決書ハ主理左ノ條件ニ照シテ之ヲ作り判士長判士録事ト共ニ署名捺印シ訴訟文書ヲ添ヘ其命令ヲ下シタル長官ニ具申ス可シ

一 判決ノ理由

二 有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條

三 無罪ノ判決書ニハ被告人ノ死去セシコト若クハ人違ヒナリシコト若クハ被告事件罪トナラサルコト若クハ犯罪ノ證據備ラサルコト

四 免訴ノ判決書ニハ公訴期滿免除ト爲リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト

五 管轄違ヒノ判決書ニハ其旨

六 私訴ノ裁判アリタルトキハ其旨

七 被告人ノ官位勳爵隊號職名氏名族籍年齢住所判決ノ年月日

第九十二條 長官左ニ記載シタルモノハ訴訟書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ具申シ其他ハ裁判宣告ノ命令ヲ下ス可シ

一 死刑ニ該リタルトキ

二 佐官及ヒ同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ

三 尉官及ヒ同等軍人ノ重罪ノ刑ニ該リタルトキ

第九十三條 海軍大臣前條ノ具申ヲ受ケタルトキ又ハ高等軍法會議ノ判決將官及ヒ其同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リ若クハ前條ニ記載シタルモノニ該リタルモノハ意見書ヲ附シ上奏ス可シ

其裁可アリタルトキ高等軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ裁判宣告ノ命令ヲ下シ他ノ軍法會議ノ判決ニ係ルモノハ長官ニ下付シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシム可シ

第九十四條 臨戰合圍ノ地ニ於テハ司令官第九十二條ノ例ニ依ラス直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得

第九十五條 長官軍法會議ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシメ直ニ裁判宣告ノ命令ヲ下ス權ナキモ、其意見書ヲ附シテ海軍大臣ニ具申ス可シ

第九十六條 海軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ之ヲ再議セシム可シ

第九十七條 裁判宣告ノ命令アリタルトキハ判士長判士主理録事列席シ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

闕席裁判ノ宣告ハ被告人闕席ノママ之ヲ爲ス可シ禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人對審終結ノ後逃走シテ出廷セズ若クハ罰金以下ノ刑ニ該リタル被告人呼出ニ應セサルトキモ亦同シ

第九十八條 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ闕席ノママ宣告アリタルトキハ主理逮捕狀ヲ發ス可シ

逮捕狀執行ノ方法ハ勾引狀執行ノ例ニ從フ若シ其所在分明ナラサルトキ其第

五十九條ノ例ニ依ル

第九十九條 被告人闕席ノママ宣告ヲ爲シタルトキハ其宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其一通ヲ被告人ノ住所ニ送達ス可シ

第一百條 外國若クハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦船長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタ

ル下士卒ニ戴罪服務ヲ命ズルコトヲ得

戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第七章 再審

第一百一條 海軍大臣軍法會議ニ於テ法律ノ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シ若クハ法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シ若クハ無罪ノ宣告ヲ爲ス可キニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルコトアルヲ知リタルトキハ再審ヲ爲サシム可シ

第一百二條 軍法會議ノ宣告左ニ記載シタル條件ニ觸ルルモノアルトキハ主理及ヒ被告人ヨリ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得被告人死去シタルトキハ其親屬之ヲ爲スコトヲ得

第八類 海軍治罪法

- 一 人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其殺サレタリト認メラレタル者
犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ
 - 二 同一ノ事件ニ付共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリタルト
キ
 - 三 公正ノ證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラサルコトヲ證明シタルトキ
 - 四 既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ヒ判決アリタルトキ
 - 五 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタル者アリタルトキ
 - 六 公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ
- 第百三條 海軍大臣前條ニ記載シタル事實アルコトヲ知リタルトキハ再審ヲ爲
サシム可シ
- 長官其事實ヲ發見シタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ具申ス可
シ
- 第百四條 再審ノ申訴ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官ニ之ヲ爲

- ス可シ艦隊軍法會議高等軍法會議合圍地軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル
者ナルトキハ海軍大臣ニ其申訴ヲ爲ス可シ
 - 主理其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添フ
可シ
 - 被告人若クハ其親屬其申訴ヲ爲ストキハ其理由書ヲ主理ニ出シ主理意見書ヲ
添フ可シ
 - 長官再審ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ具
申ス可シ
 - 海軍大臣再審ノ申訴若クハ具申ヲ受ケタルトキハ之ヲ再審セシム可シ
 - 第百五條 海軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其執行
ヲ停止ス可シ
 - 第百六條 再審ヲ爲シタル事件前ニ上奏ヲ經タルモノナルトキハ其判決ヲ上奏
シテ裁可ヲ請フ可シ
- 第八類 海軍治罪法

第七條 復権ノ願ハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ヲ經過シタル後刑ノ

宣告ヲ受ケタル者ヨリ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得
其復権願書ハ三通ヲ作り本人署名捺印シ左ニ記載シタル書類ヲ添ヘ郡區長ニ

出シ郡區長願人物品行其他必要ノ調査ヲ爲シ地方長官ニ出シ其長官ハ之ニ意
見書ヲ添ヘ海軍大臣ニ出ス可シ

三 裁判宣告書ノ謄本

三 主刑ノ滿期若クハ特赦若クハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假リニ幽閉若クハ監視ヲ免セラレタルコトヲ證明スル書類

四 賠償ヲ辨濟シ若クハ義務ヲ免カレタル證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載シタル書類

第八條 海軍大臣復権ノ願ニ關スル書類ヲ受領シタルトキハ主理ヲシテ更ニ
必要ノ調査ヲ爲サシメ意見書ヲ附シテ上奏ス可シ

第九條 復権ノ願裁可アリタルトキハ海軍大臣主理ヲシテ地方長官ヲ經テ裁
可狀ヲ本人ニ傳達セシム可シ

第十條 裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テ
主理ニ裁可狀ノ謄本ヲ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ニ送致シ軍法會議ニ於テ

第十一條 復権ノ願棄却セラレタルトキハ海軍大臣願書ニ其旨ヲ記シタル書面
ヲ附シ主理ヲシテ前條第二項ノ處分ヲ爲サシム可シ

第十二條 復権ノ願棄却セラレタルトキハ普通刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經
過スルニアラザレバ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 特赦

第十條 特赦ノ申請ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ヲ管轄スル長官又ハ主
理若クハ司獄官ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

主理其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ヲ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可シ
長官其書面ヲ受領シタルトキハ之ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ出ス可シ

司獄官其申請ヲ爲ストキハ裁判宣告ノ命令ヲ下シタル長官ニ其書面ヲ出ス可
シ長官其書面ヲ受領シタルトキハ主理ノ意見書ヲ徴シ自己ノ意見書ヲ附シ海
軍大臣ニ出ス可シ
艦隊軍法會議若クハ合圍地軍法會議ニ於テ裁判宣告ヲ受ケタル者ノ特赦ノ申
請ハ主理ヨリ直チニ海軍大臣ニ之ヲ爲スコトヲ得

第百十二條 海軍大臣前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏ス可
シ
第百十三條 海軍大臣ハ刑ノ宣告アリタル後何時ニテモ特赦ノ上奏ヲ爲スコト
ヲ得

第百十四條 特赦ノ申請アルモ死刑ヲ除クノ外刑ノ執行ヲ停止セス

第百十五條 特赦ノ上奏裁可アリタルトキハ海軍大臣特赦狀ヲ其申請ヲ爲シタ
ル諸官ニ下付シ本人ニ之ヲ傳達セシム可シ

主理ハ特赦ノ裁可アリタル旨ヲ裁判宣告書ニ記入ス可シ

●臨時海軍軍法會議法

(明治二十八年二月二十八日)
法律 第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臨時海軍軍法會議法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時海軍軍法會議法

第一條 戰時又ハ事變ニ際シ特ニ設ケタル司令長官若ハ司令官ノ下ニ臨時海軍
軍法會議ヲ置クコトヲ得

第二條 臨時海軍軍法會議ハ左ニ記載シタル者ヲ審判ス

- 一 特ニ設ケタル司令長官若ハ司令官ノ部下ニ屬スル佐官以下ノ軍人其ノ他
從軍諸員及海軍ノ用ニ供スル船舶ノ乘員ニシテ罪ヲ犯シタル者
- 二 第三條ニ依リ審判ノ委託ヲ受ケタル者

第三條 艦隊司令長官、艦隊司令官、分遣艦隊司令官及艦隊ニ屬スル艦船長ハ

海軍治罪法第二十三條第二項第三項ノ例ニ依リ臨時海軍軍法會議ニ審判ヲ委

託スルコトヲ得

第八類 臨時海軍軍法會議法

第四條 臨時海軍軍法會議ニハ海軍治罪法第二十七條第二十八條第二項及第九

十四條ヲ除外合圍地軍法會議ニ關スル規程ヲ準用スル事ヲ會議ニ附設ス

第五條 此法法律ヲ發布スル日ヨリ施行スル事ヲ會議ニ附設ス

第六條 第三條ノ旨ニ依リテ會議ニ關スル事項ハ海軍大臣ノ命ニ依リテ

第七條 第三條ノ旨ニ依リテ會議ニ關スル事項ハ海軍大臣ノ命ニ依リテ

第八條 第三條ノ旨ニ依リテ會議ニ關スル事項ハ海軍大臣ノ命ニ依リテ

第九條 第三條ノ旨ニ依リテ會議ニ關スル事項ハ海軍大臣ノ命ニ依リテ

第十條 第三條ノ旨ニ依リテ會議ニ關スル事項ハ海軍大臣ノ命ニ依リテ

第十一條 第三條ノ旨ニ依リテ會議ニ關スル事項ハ海軍大臣ノ命ニ依リテ

第十二條 第三條ノ旨ニ依リテ會議ニ關スル事項ハ海軍大臣ノ命ニ依リテ

第十三條 第三條ノ旨ニ依リテ會議ニ關スル事項ハ海軍大臣ノ命ニ依リテ

第十四條 第三條ノ旨ニ依リテ會議ニ關スル事項ハ海軍大臣ノ命ニ依リテ

第十五條 第三條ノ旨ニ依リテ會議ニ關スル事項ハ海軍大臣ノ命ニ依リテ

明治三十八年十一月廿五日印刷
明治三十八年十一月廿八日發行

發行者

江草

斧太郎

東京市東區

編輯者

山野

金藏

東京市東區

印刷者

松澤

三三

東京市東區

發行所

(電話本局三二三番)

有斐閣

書房

東京市神田區一ツ橋通町七番地二、三號地

賣捌所

同

有斐閣

雜誌店

神田區一ツ橋通町七番地四、五號地

賣捌所

同

有終閣

書房

本鄉區本郷一丁目

賣捌所

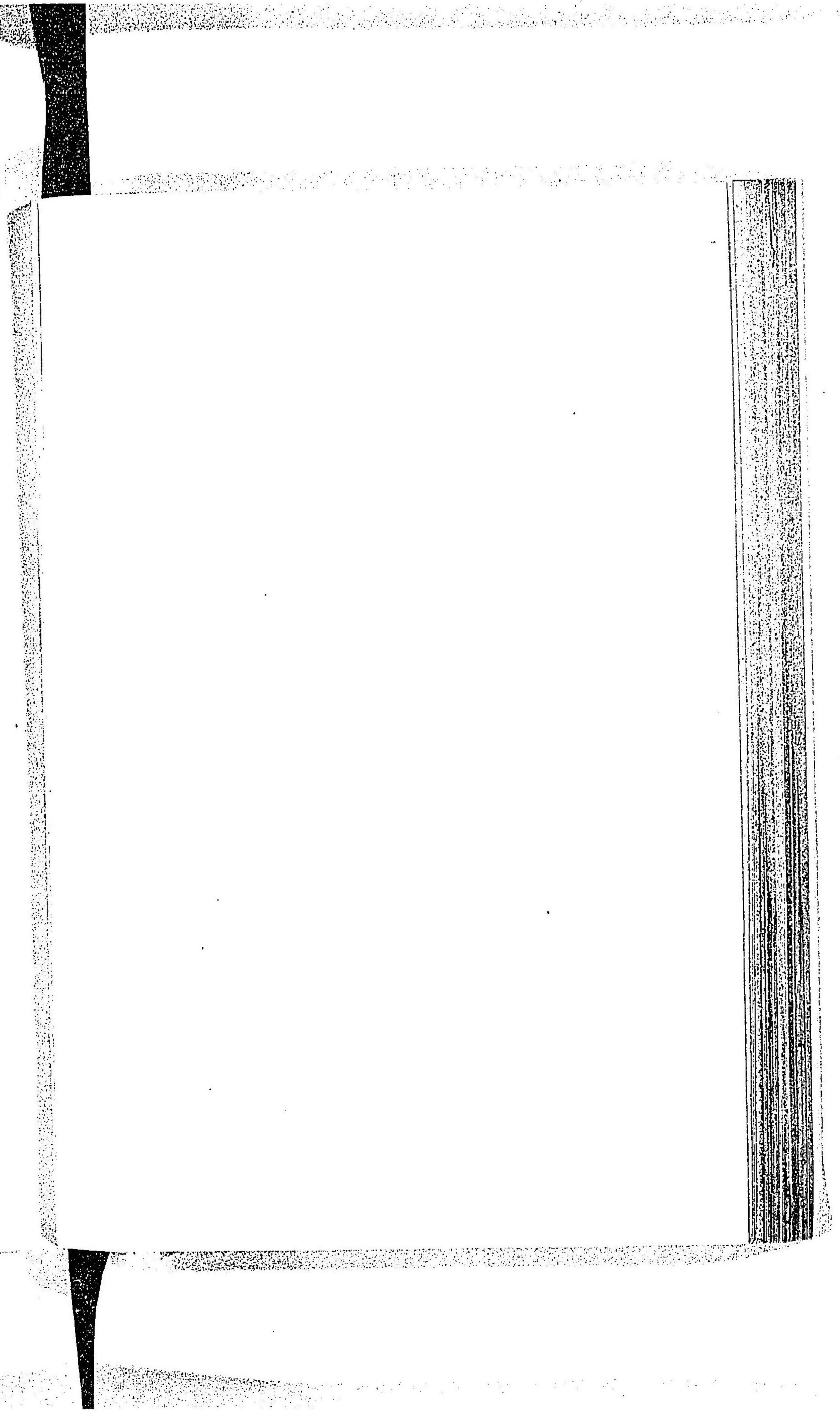
同

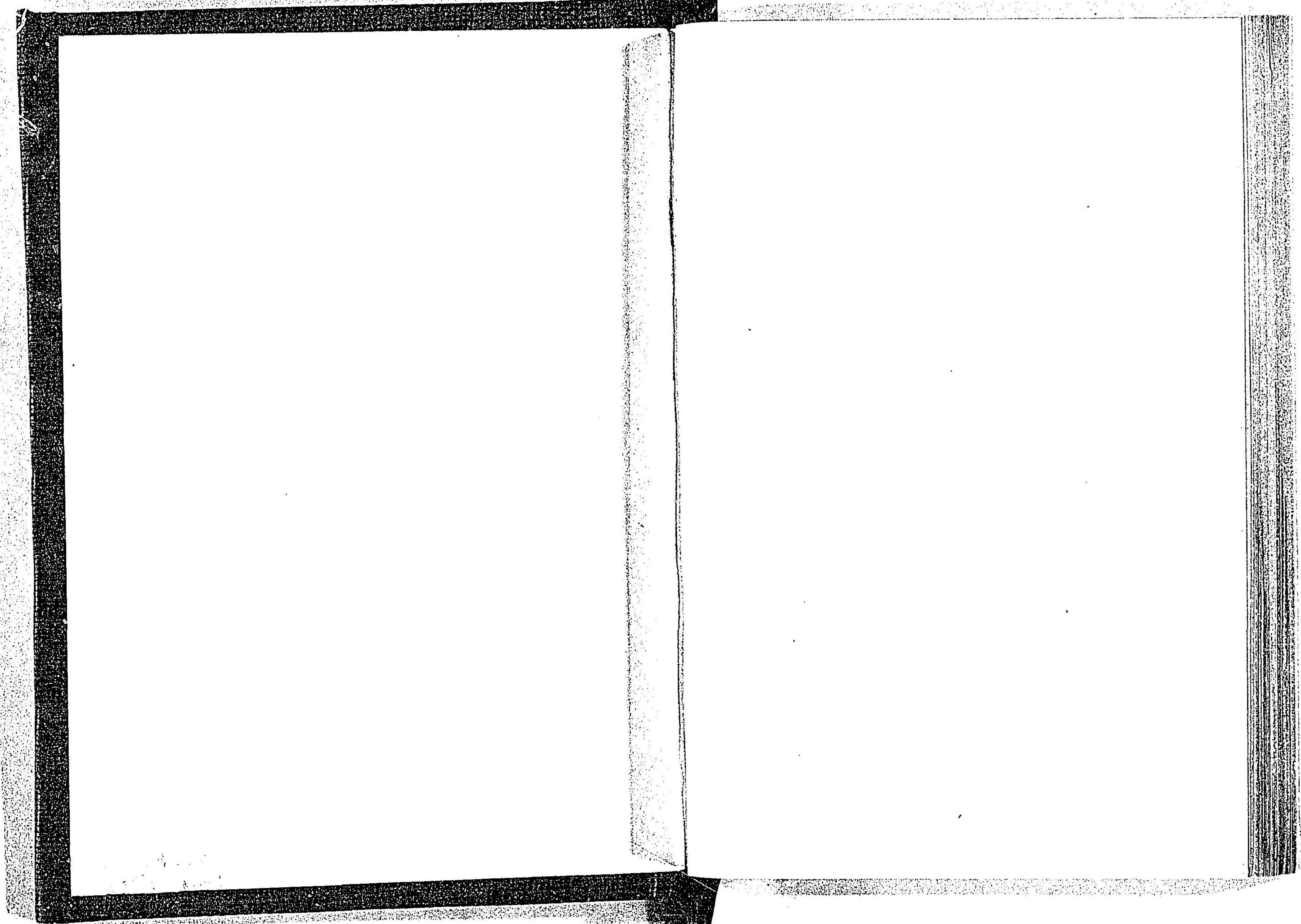
吉岡

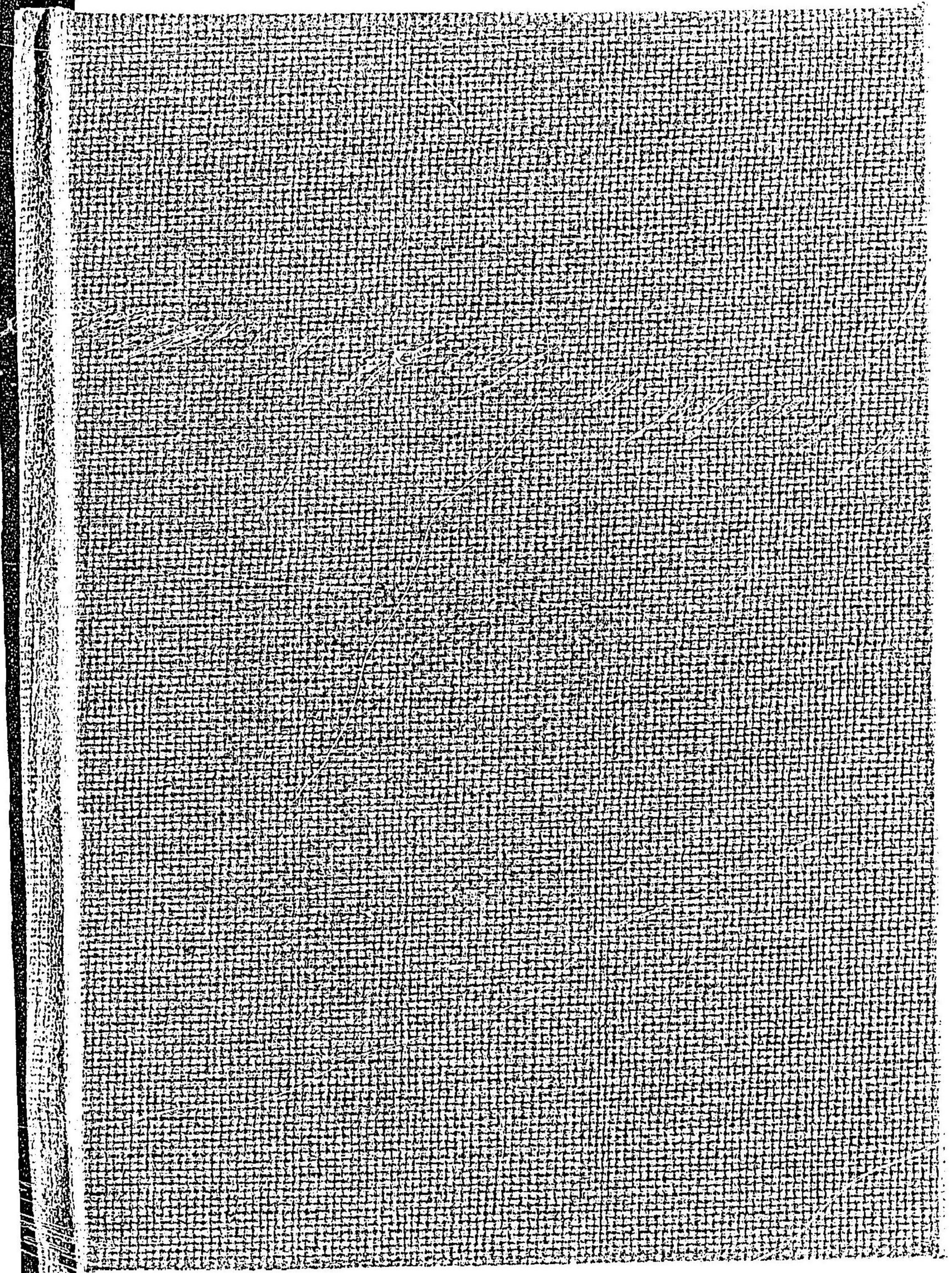
平助

大阪市東區備後町四丁目

47+V-71







禁電子式複写

030961-000-4

CZ-5-0246

現行法令提要

山野 金蔵/編

M38

BBC-0328



